

## 中央図書館整備の基本方針及びサービス計画（案）

平成 18 年 10 月 19 日

第 2 回 （仮称）中央図書館整備基本計画検討委員会資料



一宮市図書館サービスの課題まとめ

市の状況

【市町合併】

◇ 一宮市・尾西市・木曽川町の2市1町合併により市域拡大

【産業】

◇ 産業構造の変化 ◇ 郊外店舗の立地による中心市街地の疲弊

【人口構造・家族形態】

◇ 少子・高齢化の進行 ◇ 核家族化の進展 ◇ 外国人登録者数の増加

◇ 旧市街地におけるマンション建設による新住民の流入

【観光資源】

◇ セタまつり ◇ 山内一豊関連の史跡 ◇ 138タワーパーク

一宮市図書館サービスの現況と問題点

【サービス態勢・内容】

◇ 6館及び移動図書館を運営

◇ 子ども文化広場は(財)一宮市地域文化広場管理公社が運営

◇ 豊島図書館が館長・事務局長を配置する他、移動図書館を運営

◇ 豊島・尾西・木曽川・庶務の4つのサービスグループを形成し、合併前の3地区ごとにサービスを展開

◇ 豊島・尾西・木曽川の3館のサービスが横並び

◇ 司書は臨時職員を含めて25名

◇ 異動の関係で、長期にわたり経験を積んだスタッフが不足

◇ 身体障害者に対してのみ無料の郵送サービスを実施

◇ 図書館行事・集会は子どもを主な対象としたものが多い

◇ サービス対応言語は日本語のみ

◇ 広域貸出を行っているのは稲沢市のみ

【市町合併後の対応】

◇ 中央館は豊島図書館 ◇ 図書館蔵書管理システムを統一

◇ 貸出カードを統一 ◇ 移動図書館のステーションを追加

【資料】

◇ 豊島＋子ども文化広場、尾西＋尾西児童で役割分担

◇ 豊島図書館にせんいコーナーを設置

【利用】

◇ 成人の登録率が低く、特に60歳以上の登録率が低い

◇ 児童図書、視聴覚資料の利用が多い(回転率が高い)

【施設・設備】

◇ 豊島(築40年)、尾西(築25年)、尾西児童(築26年)、地域文化広場(築26年)は老朽化

◇ 豊島・尾西では収容能力が限界

◇ 高度情報化に対応していない(各館にインターネット端末は1つずつ)

関連施策

【国の施策】

◇ 多様化・高度化する生涯学習の支援拠点としての図書館

◇ 情報化への対応(電子図書館) ◇ 子どもの読書活動の推進

◇ 地域の情報拠点としての図書館(課題解決支援)

【県の施策】

◇ 生涯学習基盤の整備に向けた関連施設の拡充

【市の施策】

◇ 多種多様な生涯学習機会の充実

◇ 生涯学習関連施設の機能拡大に向けた中央図書館の実現

◇ 国際理解のための学習機会の充実 ◇ 子どもの読書活動の推進

中心市街地活性化から求められる課題

中心市街地活性化の方策として、人々が生活する上でのサービスの集積・提供を図ることが必要であり、そのサービスの集積・提供の一端として『図書館など公共機能の充実』が必要である

現時点での図書館サービスの課題

市域全体のネットワークの充実が必要

● 市域全体として一元的なサービスの展開が必要

● 中央図書館を中心としたネットワークの形成が必要

● 中央図書館整備にあわせ、他館の機能、蔵書構成、サービスの見直しが必要

● 他の図書館や学校、関連施設との連携を充実

市民の多様な学習ニーズへの対応の充実が必要

● 中央館としての高度で専門的なサービスの充実が必要

● 資料収集と蔵書構成の充実が必要

● 高度情報化への対応を図る

● 国際化への対応、国際理解に向けた機会の充実を図る

● 高齢者の図書館利用を促進するような施策が必要

● 若年層の読書活動の推進に向けた施策が必要

● 図書館に来館出来ない市民への対応の充実

● 市民の多様なニーズに対応できるスタッフが必要

(IT、ビジネス、福祉、多言語等)

● 多くの市民が利用しやすい開館日・開館時間帯の設定が必要

● 施設・設備の充実が必要

地域におけるふれ合い、情報収集の場としての取り組みが必要

● 余暇を楽しむふれ合いの場としての取り組みの充実

● 少子高齢化、産業構造の変化、中心市街地の疲弊といった地域課題の解決に向けた情報提供の充実

● せんいコーナーの設置以外のまちの活性化に向けた施策が必要

各種団体ヒヤリング結果

● 中央図書館の整備を機に、中央館と地域館との役割分担についての検討が必要

● 駅ビル立地という特性を活かし、通勤・通学者層を対象としたサービスの提供が必要

市民ニーズ(市民・利用者アンケート結果)

アンケート調査概要

■ 利用者アンケート(4館)：有効回答総数2,017票(有効回答率80.7%) ■ 市民 アンケート：有効回答総数968票(有効回答率32.3%)

アンケート結果

● 過去1年間に図書館を利用したことがあるとの回答が全体の61.1%(市民)

● 図書館利用の目的としては、本の貸出、返却が最も多く(利用者:64.3%、市民:70.2%)、1回あたりの滞在時間も1時間以内との回答が圧倒的に多い(利用者:54.4%、市民61.6%)。しかし、中央図書館に対しては、「余暇を楽しむことができる。目的がなくても立ち寄れる。」ことを望む回答が多く(利用者36.4%、市民61.3%)、滞在型の図書館への要望があることが分かる。

● 図書・雑誌・AV資料の量や種類に満足していないとの回答が31.9%(利用者)あり、特に19歳～50歳、移動図書館利用者からの不満が多いことから、それらの利用者ニーズへの対応が必要である。中央図書館に充実を望む資料としては、趣味・娯楽書が最も多く、次いで文学書・専門書となっている。

● 開館日・開館時間帯に満足していないとの回答が27.8%(利用者)で、特に学生・会社員の利用者、豊島図書館・地域文化広場の利用者からの不満が多いことから、多くの市民が利用しやすい開館日・開館時間帯について検討の必要がある。

中央図書館の基本方針(案)

【基本コンセプト】

ひと・まち・暮らしの知恵の輪(和)に

市民や地域の知的・創造活動をつむぐ、

参加型図書館を目指して

【基本方針】

図書館ネットワークの中核拠点としての機能充実を図る

市内図書館の中核としてネットワークを形成し、市内全域における一元的かつ効率的なサービスの展開を図る。

市民生活やまちの課題解決に資する、高度で専門的なサービスを提供する

時代や社会の変化に対応し、より高度で専門的なサービスを提供することで、全市民の多様なニーズへの対応を図る。

にぎわい・ふれあいの場として交流・情報機能を充実する

駅前立地という特性を活かし、市民の交流・ふれ合いの場、中心市街地における情報提供・交換の場の形成を図る。

駅前立地における図書館

【尾張一宮駅の特性】

● 市内で最多の駅利用者数

● 市内で最大の商業集積地

● 一宮市役所等の公共公益機能が集積

● 尾張の一の宮である真清田神社の最寄り駅

【既往の駅前図書館における特徴的なサービス】

● ビジネス支援サービス

● 多言語サービス

● 郷土の産業・企業に関する資料の提供

● 貸出用ノートパソコン110台(インターネット、DVD閲覧用)

● オンラインデータベースの無料提供

● 雑誌タイトル数400誌以上の提供







～ 目 次 ～

(ページ)

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| 1. 計画策定の趣旨 .....                                      | 1  |
| 1.1. 計画策定の目的 .....                                    | 1  |
| 1.2. 計画の背景とこれまでの経緯.....                               | 1  |
| 2. 現況把握 .....                                         | 2  |
| 2.1. 市の概況 .....                                       | 2  |
| 2.1.1 歴史 .....                                        | 2  |
| 2.1.2 交通 .....                                        | 2  |
| 2.1.3 産業.....                                         | 3  |
| 2.1.4 観光資源.....                                       | 4  |
| 2.1.5 人口 .....                                        | 4  |
| 3. 中央図書館の取り組み課題 .....                                 | 5  |
| 3.1. 図書館・生涯学習振興施策の流れ .....                            | 5  |
| 3.1.1 国の施策の流れ.....                                    | 5  |
| 3.1.2 愛知県の施策の流れ .....                                 | 6  |
| 3.1.3 一宮市の施策の流れ .....                                 | 6  |
| 3.2. 一宮市図書館サービスの現況.....                               | 8  |
| 3.2.1 一宮市立図書館の沿革.....                                 | 8  |
| 3.2.2 施設概況.....                                       | 8  |
| 3.2.3 サービス体制 .....                                    | 13 |
| 3.2.4 蔵書構成.....                                       | 15 |
| 3.2.5 利用状況.....                                       | 16 |
| 3.2.6 図書館情報システム .....                                 | 17 |
| 3.2.7 市外とのネットワーク .....                                | 17 |
| 3.2.8 学校支援.....                                       | 17 |
| 3.3. 駅ビル建替え構想.....                                    | 18 |
| 3.3.1 尾張一宮駅周辺地域再生整備事業.....                            | 18 |
| 3.4. 市民要望 .....                                       | 21 |
| 3.4.1 『豊島図書館利用者アンケート調査』（平成17年2月実施） .....              | 21 |
| 3.4.2 『第6次一宮市総合計画市民アンケート調査』（平成17年11月実施） .....         | 21 |
| 3.4.3 『（仮称）中央図書館整備基本計画に関するアンケート調査』（平成18年8、9月実施） ..... | 21 |
| 3.4.4 ヒアリング結果.....                                    | 25 |
| 3.5. 中央図書館整備にあたっての課題 .....                            | 26 |

|                                          |           |
|------------------------------------------|-----------|
| 3.5.1 現行図書館の問題点と課題.....                  | 26        |
| 3.5.2 駅ビル図書館としての課題.....                  | 29        |
| <b>4. 基本方針 .....</b>                     | <b>31</b> |
| 4.1. 本市におけるこれからの図書館サービスの在り方.....         | 31        |
| 4.2. 中央図書館整備の基本方針 .....                  | 32        |
| 4.2.1 基本コンセプト.....                       | 32        |
| 4.2.2 基本方針.....                          | 32        |
| 4.2.3 図書館ネットワーク・サービス網における中央図書館の役割.....   | 33        |
| 4.2.4 高度で専門的なサービスの提供拠点としての中央図書館の役割 ..... | 34        |
| 4.2.5 情報・交流拠点としての役割.....                 | 35        |
| 4.2.6 他の公共サービスとの複合化による相乗効果 .....         | 36        |
| <b>5. 図書館サービス計画の検討 .....</b>             | <b>37</b> |
| 5.1. 基本的考え方.....                         | 37        |
| 5.2. 図書館の基本サービス .....                    | 38        |
| 5.2.1 資料・情報提供サービス .....                  | 38        |
| 5.2.2 レファレンスサービス .....                   | 38        |
| 5.2.3 アウトリーチサービス.....                    | 38        |
| 5.2.4 地域資料・行政資料サービス.....                 | 39        |
| 5.2.5 I Tサービス .....                      | 39        |
| 5.2.6 利用対象別サービス .....                    | 40        |
| 5.2.7 特徴的なサービス .....                     | 42        |
| 5.3. 図書館資料の収集計画 .....                    | 45        |
| 5.3.1 収集資料の基本方針 .....                    | 45        |
| 5.3.2 資料の収集基準.....                       | 46        |
| 5.3.3 図書館資料の保存方針.....                    | 47        |

# 1. 計画策定の趣旨

---

## 1.1. 計画策定の目的

（仮称）中央図書館整備基本計画においては、一宮市（以下、「本市」という。）が尾張一宮駅ビルに整備を計画している中央図書館のあるべき図書館像、役割、機能、サービス、規模、事業方策等の具体的検討を行うことを目的とする。

## 1.2. 計画の背景とこれまでの経緯

近年、社会においては、情報化、グローバル化、少子・高齢化といった様々な変化が生じている。社会のこうした変化や成熟化に対応するため、生涯学習の重要性が認知され、多様な学習機会の提供が図られている。それに伴い、図書館には生涯学習拠点としての役割が期待され、その扱う情報の質・量も変化しつつある。そして、従来の図書館サービスの提供に加えて、新たな地域・市民ニーズへの対応が望まれている。

現在の一宮市立豊島図書館は、昭和 41 年 4 月の開館以来約 40 年間にわたり市民や組織・団体等の利用者に対し多様な情報・資料・学習機会等を提供し、地域において親しまれてきた。しかし、施設の老朽化や収容能力の不足等の問題を抱えていること、地域や市民の多様なニーズに対応する必要があることなどから、図書館サービスの向上に向けた改善が求められている。

また、本市においては中心市街地活性化基本計画が策定され、尾張一宮駅周辺において中心市街地活性化構想による各種事業が推進されている。この構想においては、尾張一宮駅ビル及びその周辺の中心市街地における新たな賑わいの形成が求められており、老朽化した尾張一宮駅ビルの建て替えに併せ、豊島図書館の移転・機能拡充となる中央図書館などの公共施設と商業・業務などの民間施設を複合化した新しい駅ビルの整備も視野に入れた検討が行われている。

## 2. 現況把握

### 2.1. 市の概況

一宮市は、愛知県の北西部にあり、名古屋市と岐阜市のほぼ中間に位置する。

#### 2.1.1 歴史<sup>1</sup>

平安時代に真清田神社が尾張の国における巡拝の「一の宮」であったことから、その門前町を中心とした地域が一宮と呼ばれ、現在に至る。江戸時代には、周辺が綿作地帯として発展したこと、また定期市（三八市）が開設され、繊維商品を中心とした取引が行われたことなどにより、繊維都市一宮の基盤が築かれることとなった。

さらに、明治時代には織物生産が工業化されたことにより、絹綿交織物、そして毛織物の産地として発展した。その後、大正時代になると、一宮駅の開業、私鉄の開通等の鉄道の発展により、尾張一宮駅前には織物問屋街が形成され、繊維産業がますます発展した。そして、昭和初期には総合繊維産業都市として知られるに至った。しかし、近年では他産業が発展し、繊維産業中心都市から産業構造が変化しつつある。

現在の本市のかたちとなったのは、平成 17 年 4 月 1 日の市町合併からであり、一宮市・尾西市・木曽川町が合併し、新生「一宮市」が誕生した。

#### 2.1.2 交通

公共交通機関の鉄道は、JR 東海道本線、名古屋鉄道名古屋本線と名古屋鉄道尾西線の 3 路線が走っている。



(出典：一宮市 HP 掲載資料をもとに作成)

図 1 市内交通網と図書館配置

<sup>1</sup> 以下の説明については、特記なき限り『一宮市教育委員会五十年史』による。

また、バスは、名鉄一宮駅を基点に名鉄バスが四方へ路線を伸ばしている他、市内の公共機関を巡回するiーバス<sup>2</sup>が運行されている。

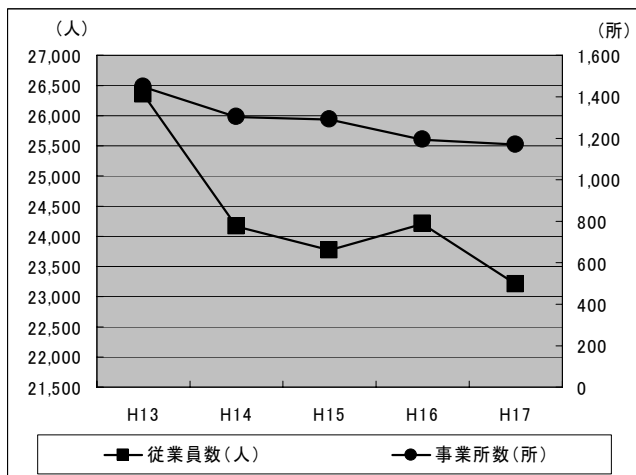
道路は、名神高速道路、東海北陸自動車道の2本の高速道路のほか、2本の国道が走っている。

### 2.1.3 産業

本市では、毛織物等の繊維産業を基幹に商工業が発展してきたため、全国平均と比較すると第2次産業の占める割合が多い。しかし、近年では第3次産業の占める割合が高まっている。

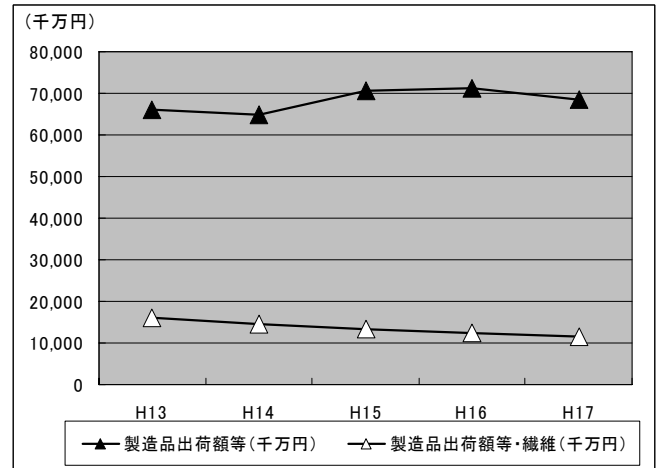
工業については、市内事業所数、従業員数の推移は図2、製造品出荷額等の推移は図3の通りであり、従業員数、事業所数、繊維製品出荷額の減少が見られる。

また、製造品出荷額等の構成については図4の通りで、「繊維」の占める割合は16.8%と、「電気・情報・電子」等の繊維以外の割合が多い。工業の分野での構造転換が見られ、地場産業都市としての性格が弱まっていることが分かる。



（出典：『一宮市の工業 平成17年度』をもとに作成）

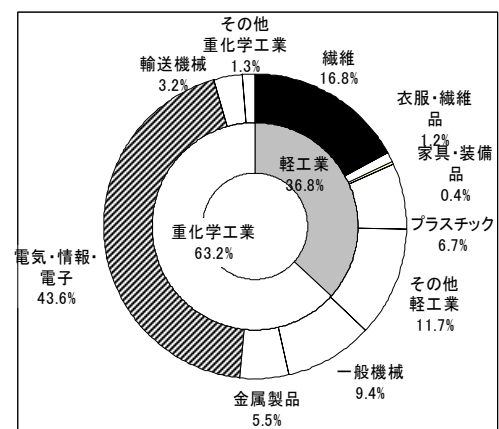
図2 市内従業員数・事業所数の推移（平成17年度）



（出典：『一宮市の工業 平成17年度』をもとに作成）

図3 製造品出荷額等の推移（平成17年度）

また、商業については、繊維工業製品を中心とする卸売業を中心に発展してきたが、郊外店舗の立地等により、中心市街地の商業拠点性は低下傾向にある。



（出典：『平成17年度 一宮市の工業』より）

図4 製造品出荷額等の内訳（平成17年度）

<sup>2</sup> 詳細については本市 HP

<http://wwwsv.city.ichinomiya.aichi.jp/division/chiikifureai/guide/i-bus/>  
参照のこと。

## 2.1.4 観光資源

市内で人が生活し始めた縄文時代以降、弥生時代、古墳時代の遺跡が数多くある。また、地域で守られ伝えられてきた伝統芸能も各地に遺されている。さらに、桃花祭や石刀祭、七夕まつりには市外からも多くの人々が訪れる。また、山内一豊の出生地でもあり、関連する史跡が存在する。NHK 大河ドラマにも取り上げられたことから、観光協会や商工会などにより、関連した観光情報の提供が積極的に行われている。

その他、国営木曽川三川公園内 138 タワーパークには、高さ 138 メートルの展望タワー「ツインアーチ 138」がある。

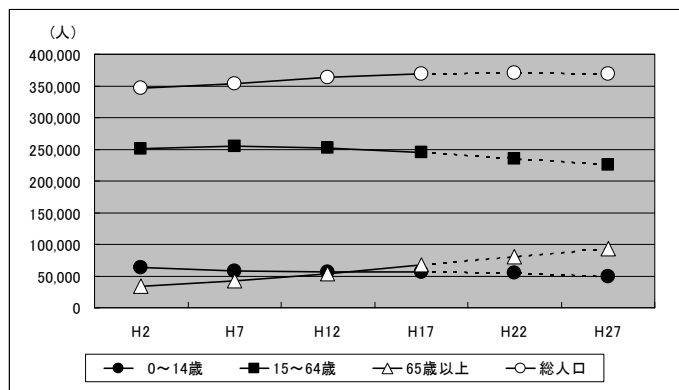
## 2.1.5 人口

### 1) 推移と将来予測

一宮市の人口と世帯数は、平成 18 年 4 月時点で 378,725 人、135,786 世帯で、ともに漸増傾向にある。しかし、平均世帯員数は 2.79 人と漸減傾向にあり、核家族化が伺える。

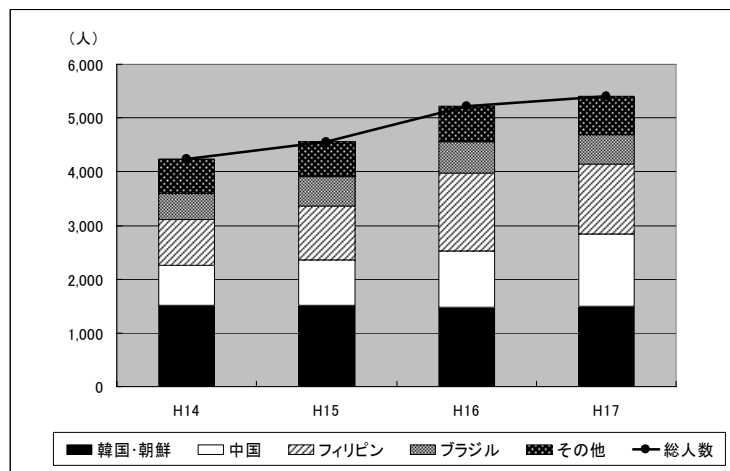
平成 15 年度頃までは丹陽町や大和町等の旧市街地周辺部の区画整理が進んだ地区での人口増が見られていた。しかし、近年では旧市街地でのマンション建設が進んでおり、その影響による人口増が見込まれることから、新旧住民の交流も課題になると考えられている。

高齢化率については全国平均よりも低い<sup>3</sup>が、65 歳以上人口が人口全体の 20% 近くを占めており、その数は平成 27 年までに現在の約 1.4 倍に増加すると見込まれている（図 5 参照）。こうした人口構造や家族形態の変化の中で、ひとり暮らし・寝たきり老人の増加等の問題も顕在化すると考えられている。



(出典：『新市建設計画をもとに作成』)  
※ H17 以降は推計値である。

図 5 年齢別人口の推移と予測



(出典：愛知県 HP 掲載データをもとに作成)

図 6 市内外国人登録者数の推移

### 2) 外国人登録者数の推移

外国人登録者数は 5,394 人<sup>4</sup>と愛知県の市町村の中で 8 番目<sup>5</sup>に多い。

過去から登録者数が多いのは、韓国・朝鮮国籍であったが、近年では中国国籍、フィリピン国籍が増加傾向にある他、ブラジル国籍も多い。そのため、ハローワーク等においては、特別援助部門を設置し、外国人求職者への対応もなされている。

<sup>3</sup> 本市の高齢化人口比率は 17.8%であるのに対し、全国平均は 19.5%（平成 17 年時点）

<sup>4</sup> 平成 17 年 12 月時点データ

<sup>5</sup> 県内 66 市町村中 8 番目

### 3. 中央図書館の取り組み課題

---

#### 3.1. 図書館・生涯学習振興施策の流れ

近年の国・県・市による図書館施策、生涯学習振興施策の取り組み状況は以下の通りである（図 7 参照）。

##### 3.1.1 国の施策の流れ

生涯学習時代の到来と共に、図書館の生涯学習拠点としての役割も見直され、それに応じた図書館行政が行われてきた。昭和 63 年には社教審施設分科会が『新しい時代（生涯学習・高度情報化の時代）に向けての公共図書館の在り方について（中間報告）』を発表、図書館を「生涯学習を進める上で最も基本的、かつ重要な施設」と位置づけ<sup>6</sup>ている。また、平成 4 年には、生涯学習審議会社会教育文化審議会により、公立図書館の健全な発展に資することを目的に『公立図書館の設置及び運営に関する基準について（報告）』が発表された。これらの報告等を通じて、図書館を生涯学習の中心核として位置づける施策が展開された。

また、平成 8 年には、同審議会は『社会教育主事、学芸員および司書の養成、研修等の改善方法について』を明らかにして司書養成教育内容の改善を提言<sup>7</sup>している。

さらに、平成 12 年には図書館法 18 条に基づき『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準（報告）』が発表され、翌年に制定施行された。同基準においては、「図書館機能を十分発揮できるだけの種類・量の資料整備に努めること」、「就職、転職、職業能力開発、仕事のための資料・情報の提供に努めること」などが強調され、併せて「地方公共団体の行政資料等の情報」、「市民生活に必要な資料や情報」等の充実を図るべきとされた。そして、これらの機能を活かすために、IT を活用した検索システムの整備、レファレンスサービスの充実、専門的サービスを実施する専門職員の確保などが求められている。

また、日本図書館協会等も政策提言を行っており、同協会町村図書館活動推進委員会は『21 世紀の町村図書館振興を目指す政策提言 L プラン 21「図書館による町村ルネサンス」』を発表し、その中で図書館の理念と働きを提言すると共に、設置と運営に関する数値基準をまとめた。

さらに同年には『2005 年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～』が文部省の地域電子図書館構想検討協力者会議によりまとめられ、図書館の情報化対応の方向性も示されている。その後、平成 17 年には『地域の情報ハブとしての図書館－課題解決型の図書館を目指して－』が、平成 18 年には『これからの図書館像－地域を支える情報拠点を目指して』がまとめられるなど、情報拠点としての公立図書館サービスの在り方が検討されるようになった。

また、近年子どもの読書離れが問題となっていることから、平成 14 年には、読書活動を通じた子どもの健やかな成長を目的に『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』が制定された。同計画では、「子どもの読書活動を推進していくためには、公立図書館に豊富で多様な資料を整備していくこと」や「司書は子どもの読書活動を推進する上で極めて重要な役割を果たすこと」、「公立図書館が学校図書館と緊密に連携・協力していくこと」が地方

---

<sup>6</sup> 小黒浩司『JLA 図書館情報学テキストシリーズ 12 図書及び図書館史』日本図書館協会、2000 年、p.119

<sup>7</sup> 同上

自治体に求められた。その他、平成 17 年には『文字・活字文化振興法』が制定され、公共図書館・学校図書館の司書や図書館資料の充実、情報化の推進などを自治体に求めている。

### 3.1.2 愛知県の施策の流れ

愛知県においては、平成 7 年に生涯学習推進本部が設置され、翌年に『愛知県生涯学習推進構想』が策定された。また、同年に生涯学習審議会が『21 世紀を展望した愛知県の生涯学習振興の基本方策について』の答申を行い、それを受けて、愛知県における生涯学習体制が整備され、本格的な生涯学習活動がスタートすることとなった。同答申においては、生涯学習の基盤整備は、「地域における生涯学習活動を発展させる方向で推進させることが重要」とされており、公民館や文化施設等と並んで図書館が生涯学習関連機関として位置づけられ、その拡充が求められている。

さらに、平成 11 年には『愛知県における生涯学習情報ネットワークの在り方について』で、生涯学習センターにおいてどのような学習情報システムを構築するか、そのためどのような連携・協力が必要かについての提言が行われた。その後、平成 12 年には愛知県生涯学習情報システムの基本計画が策定され、平成 15 年には生涯学習推進センターが設置された。

また、子どもの読書活動に関しては、平成 16 年に『愛知県子ども読書活動推進計画』が策定され、図書館の子ども向けサービスの充実や、図書館間協力等の推進などが施策の方向として挙げられた。

### 3.1.3 一宮市の施策の流れ

一宮市においては、平成 6 年に生涯学習推進会議より『生涯学習いちのみや構想』が答申され<sup>8</sup>、「いつでも、どこでも、だれでも、楽しく学ぶことができる“生涯学習を大切にするまちづくり”」が求められた。そして、平成 8 年には、同答申の趣旨を活かし、市民一人ひとりの生涯学習活動を積極的に支援し、将来像として“心のゆたかさ”があふれるまち”を実現することを目的に『いちのみや生涯学習推進計画』が策定された。

また、平成 13 年 4 月に策定された『第 5 次一宮市総合計画』において、図書館を生涯学習の中核施設として整備するべく調査・研究を進め、新図書館の実現に努めることが謳われた。これを受け、平成 14 年には『いちのみや生涯学習推進計画』の見直しが行われ、生涯学習推進体制の課題と方策として、生涯学習関連施設の整備・充実が謳われた。そして市民の学習需要の増大に対応するため、生涯学習関連施設の機能の見直しを行い、整備・充実および機能の拡大を図る<sup>9</sup>こととされ、生涯学習関連施設の機能拡大に向けた方策として、中央図書館の実現に向けた調査・研究が挙げられている。

さらに、平成 17 年度の 2 市 1 町の合併に向けて策定された『新市建設計画』においては、新市の基本方針として「教育・文化の振興“個性を育む教育・文化のまちづくり”」が挙げられており、多種多様な生涯学習機会の充実が図られている。

また、子どもの読書活動については、自主的な読書活動の推進に向け、平成 18 年 6 月には、市民意見を反映するため、公募委員を含め子ども読書活動推進懇話会を設置し、『一宮市子ども読書活動推進計画』の策定が進められている。

---

<sup>8</sup> 一宮市『いちのみや生涯学習推進計画』2002 年、p.6

<sup>9</sup> 同上 p.32

|                  | 国                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 愛知県                                                                                                                                                           | 一宮市                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成2年<br>(1990年)  | 生涯学習の中心核としての図書館<br>昭和63年2月<br>『新しい時代(生涯学習・高度<br>情報化の時代)に向けての公<br>共図書館の在り方について<br>(中間報告)』                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                  | 平成4年5月<br>『公立図書館の設置及び運<br>営に関する基準について<br>(報告)』                                                                                                                                                                                                                                                                      | 平成7年1月<br>『21世紀を展望した愛知県の<br>生涯学習振興の基本方策に<br>ついて』答申                                                                                                            | 平成8年8月<br>『生涯学習いちのみや構想』<br>答申<br>●本格的な生涯学習活動の<br>スタート                                                                                                                                                                                                  |
| 平成12年<br>(2000年) | 平成8年4月<br>『社会教育主事、学芸員及び<br>司書の養成、研修等の改善<br>方法について』<br>評価と運営に関する基準                                                                                                                                                                                                                                                   | 平成7年4月<br>生涯学習推進本部設置<br>平成8年3月<br>『愛知県生涯学習推進構想』<br>●本格的な生涯学習活動の<br>スタート                                                                                       | 平成8年3月<br>『生涯学習推進計画』策定                                                                                                                                                                                                                                 |
|                  | 平成12年10月<br>『Lプラン21』<br>平成12年12月<br>『公立図書館の設置及び運営<br>上の望ましい基準(報告)』<br>ハイブリッド図書館<br>平成12年12月<br>『2005年の図書館像～地域<br>電子図書館の実現に向けて』<br>平成14年8月<br>『子どもの読書活動の推進に<br>関する基本的な計画』<br>情報拠点としての図書館<br>平成17年1月<br>『地域の情報ハブとしての図<br>書館―課題解決型の図書館<br>を目指して―』<br>平成17年7月<br>『文字・活字文化振興法』<br>平成18年3月<br>『これからの図書館像―地域<br>を支える情報拠点を』 | 平成11年1月<br>『愛知県における生涯学習情報<br>ネットワークの在り方について』<br>平成12年8月<br>『愛知県生涯学習情報システム』<br>基本計画策定<br>平成15年1月<br>『愛知県生涯学習推進センター<br>設置』<br>平成16年3月<br>『愛知県子ども読書活動推進計<br>画』策定 | 平成13年4月<br>『第5次総合計画』<br>平成14年3月改訂<br>『生涯学習推進計画』<br>●図書館を生涯学習関連機関<br>として位置づけ、その拡充を<br>謳っている<br>平成16年7月<br>『新市建設計画』<br>平成17年3月<br>尾張一宮駅周辺地域再生整備<br>事業[尾張一宮駅ビル構想]<br>●新中央図書館の整備、<br>駅ビルへの導入について<br>検討中<br>平成17年4月 市町合併<br>平成18年<br>『一宮子ども読書活動推進<br>計画』策定中 |

図 7 図書館・生涯学習進行施策の流れ

## 3.2. 一宮市図書館サービスの現況

### 3.2.1 一宮市立図書館の沿革<sup>10</sup>

旧一宮市における図書館サービスは、大正4年に町立図書館が設置されたことに始まる。昭和41年には図書館創立50周年記念事業として現在地に「一宮市立豊島図書館」が建設されると同時に、繊維図書コーナーと児童コーナーとが設置された。昭和45年には敷地内に「児童文化センター」が開館し、昭和55年には「図書館別館」となった。また、同年には移動図書館車はたる号による貸出業務も開始された。さらに、昭和55年には地域住民のふれあいと地域文化の振興を目指して、「地域文化広場」が建設された。昭和63年からは別館が視聴覚活動の拠点となり、視聴覚資料の貸出も行われた。そして、平成になると、電算システムの導入、貸出点数の変更等<sup>11</sup>により利用者サービスの向上が図られた。また、子どもに様々な文化活動・体験学習の場を提供することを目的とした施設として、平成15年に「子ども文化広場」が開館している。

旧尾西市においては、昭和31年に旧起町役場の一角に図書館が設置され図書の貸出しが始められた。その後、第2次尾西市総合計画（昭和51～60年度）において新図書館建設が推進されたことから、昭和56年に現尾西図書館が開館した。また、前年には現尾西児童図書館が開館しており、昭和58年に尾西図書館の分館として位置づけられた。本館・分館ともに昭和61年には電算による貸出しが開始され、平成になると視聴覚資料の貸出が行われるようになった。

旧木曽川町においては、中央公民館の図書室が図書館機能を担ってきた。住民の図書館建設に向けての要望が高まる中、平成8年に建設用地を取得したことから、平成13年に現玉堂記念木曽川図書館が開館した。図書の貸出しの他、映画上映会、作品展なども行っており、平成14年にはブックスタートと子ども放送局の放映を開始した。

なお、平成13年度からは旧一宮市、旧尾西市、旧木曽川町の2市1町で広域貸出が開始されていた。

### 3.2.2 施設概況

現在本市では豊島図書館・尾西図書館・玉堂記念木曽川図書館・尾西児童図書館及び図書館類似施設として、地域文化広場、子ども文化広場（以下、「6館の市立図書館」という。）と、移動図書館が運営されている<sup>12</sup>。平成17年の市町合併後に中央館としての役割を担っているのは豊島図書館であるが、人員面で館長・事務局長を配置している点、移動図書館を運営している点以外には、特に特徴的なサービスは行っていない。各館の概要については、表1の通りである。

<sup>10</sup> 以下の説明については、特記なき限り『一宮市教育委員会五十年史』及び平成17年度図書館年報による。

<sup>11</sup> 電算システムの導入と併せて5冊から10冊に変更された。

<sup>12</sup> 子ども文化広場は一宮地域文化広場管理公社により、一宮市と（財）車輛競技公益資金記念財団の補助を受けて建設され、公社による自主運営が行われている。そのため、蔵書については一宮市から使用貸借を受け、新規に購入する図書等についても、豊島図書館を通じて購入するという状況になっている。また、同公社は地域文化広場を市からの委託により運営している。

**1) 豊島図書館**

現在の中央館である豊島図書館は、建設から 40 年以上が経過しており、老朽化が進んでいる。また、館内にはエレベーターがないなど、バリアフリー対策も不十分である。さらに、蔵書数も図書館の収蔵能力を超えているため、新たな分野の蔵書数を拡大することが困難な状況となっている。

**2) 尾西図書館**

建設から約 25 年が経過しており、設備系統の不具合が頻繁に発生している。また、蔵書数とその収蔵能力を超えている。

**3) 尾西児童図書館**

児童館に併設されている。

**4) 地域文化広場**

建設から約 25 年が経過しており、設備系統の不具合が頻繁に発生している。

**5) 玉堂記念木曽川図書館**

平成 13 年に開館しており、施設は新しく、設備も整っている。

**6) 子ども文化広場**

施設は（財）一宮地域文化広場管理公社の所有だが、近年中に市に施設移管される可能性がある。



表 1 6館比較表（平成17年度末現在）

| 項 目           |          | 豊島図書館       |             |                | 尾西図書館           | 尾西児童図書館     | 玉堂記念木曽川図書館  | 一宮地域文化広場     | 一宮子ども文化広場      | 合 計         |     |
|---------------|----------|-------------|-------------|----------------|-----------------|-------------|-------------|--------------|----------------|-------------|-----|
|               |          | 本 館         | 別 館         | 移動図書館          |                 |             |             |              |                |             |     |
| 1 開館年月日       |          | S. 41. 4. 6 | S. 45. 5. 5 | S. 55. 10. 1   | S. 56. 10. 24   | S. 55. 4. 1 | H. 13. 4. 1 | S. 55. 9. 15 | H. 15. 5. 5    |             |     |
| 2 敷地面積        |          | 2, 592. 23㎡ |             |                | (H. 2. 9. 1買換え) | 2, 739. 72㎡ | 674. 92㎡    | 1, 892. 92㎡  | 21, 166. 00㎡   | 1, 182. 77㎡ | 6 館 |
| 3 建物延面積       | 建築構造     | 3階建て        | 3階建て        | 4, 000冊積載      | 2階建て            | 2階建ての2階部分   | 3階建て        | 2階建ての1階一部    | 3階建て           |             |     |
|               | 延床面積     | 2, 304. 33㎡ | 612. 50㎡    | L706・W226・H290 | 1, 835. 90㎡     | 275. 25㎡    | 2, 378. 52㎡ | 1, 980㎡中152㎡ | 1,575.19㎡中427㎡ | 7, 985. 5㎡  |     |
| 4 図書館費(単位:千円) |          | 244,319     |             |                | 90,730          | (尾西図書館費内)   | 129,154     | (豊島図書館費内)    | (豊島図書館費内)      | 464,203     |     |
|               |          | うち資料費       |             |                | 56,458          | 19,851      |             | 40,928       |                | 117,237     |     |
|               |          | うち図書購入費     |             |                | 47,100          | 15,000      | 〃           | 13,685       | 〃              | 75,785      |     |
| 5 蔵書点数        | 合計       | 258,390     | 88,888      |                | 207,904         | 27,849      | 93,543      | 13,711       | 72,119         | 762,404     |     |
|               | 一般図書     | 235,137     | 31,653      |                | 140,495         | 8,282       | 64,022      | 6,254        | 2,808          | 488,651     |     |
|               | 児童図書     | 4,723       | 34,561      |                | 45,976          | 17,420      | 23,493      | 7,457        | 64,457         | 198,087     |     |
|               | 雑誌       | 15,764      | 0           |                | 8,858           | 442         | 2,513       | 0            | 754            | 28,331      |     |
|               | 視聴覚資料等   | 2,766       | 22,674      |                | 12,575          | 1,705       | 3,515       | 0            | 4,100          | 47,335      |     |
| 6 登録者数        | 合計       | 75,626      | (豊島サーバー内)   | (豊島サーバー内)      | 18,545          | 1,660       | 22,865      | (豊島サーバー内)    | (豊島サーバー内)      | 118,696     |     |
|               | 一般       | 49,583      | 〃           | 〃              | 15,112          | 1,127       | 16,976      | 〃            | 〃              | 82,798      |     |
|               | 児童       | 25,821      | 〃           | 〃              | 3,389           | 530         | 5,889       | 〃            | 〃              | 35,629      |     |
|               | 団体       | 222         | 〃           | 〃              | 44              | 3           | —           | 〃            | 〃              | 269         |     |
| 7 貸出点数        | 合計       | 430,735     | 137,505     | 70,693         | 403,044         | 42,443      | 363,630     | 32,342       | 356,545        | 1,836,937   |     |
|               | 個人       | 430,735     | 113,671     | 70,693         | 396,627         | 40,705      | 363,568     | 32,342       | 349,063        | 1,797,404   |     |
|               | 団体(学校含む) | 0           | 16,761      | 0              | 6,417           | 1,738       | 0           | 0            | 0              | 24,916      |     |
|               | 学校読書活動支援 | 0           | 7,073       | 0              | 0               | 0           | 62          | 0            | 7,482          | 14,617      |     |
| 8 貸出者数        | 合計       | 119,016     | 40,504      | 16,241         | 89,779          | 8,750       | 83,310      | 8,391        | 82,886         | 448,877     |     |
|               | 個人       | 118,628     | 40,504      | 16,241         | 89,202          | 8,552       | 83,310      | 8,391        | 82,886         | 447,714     |     |
|               | 団体       | 388         | 0           | 0              | 577             | 198         | 0           | 0            | 0              | 1,163       |     |
| 9 相互貸借        | 貸出       | 683         |             |                | 4               | 0           | 152         | 0            | 0              | 839         |     |
|               | 借入       | 359         |             |                | 218             | 6           | 220         | 0            | 0              | 803         |     |
| 10 レファレンスサービス |          | 3,463       |             |                | 817             | 476         | 3,699       | (統計データなし)    | (統計データなし)      | 8,455       |     |
|               |          | 口頭          |             |                | 800             | 466         | 3,669       | 〃            | 〃              | 8,398       |     |
|               |          | 電話          |             |                | (統計データなし)       | 16          | 10          | 30           | 〃              | 〃           | 56  |
|               |          | 文書          |             |                | (統計データなし)       | 1           | 0           | 0            | 〃              | 〃           | 1   |
| 11 予約点数       | 合計       | 39,727      |             |                | 6,451           | 1,167       | 5,343       | (豊島サーバー)     | (豊島サーバー)       | 52,688      |     |
|               | 一般       | 24,943      |             |                | 3,619           | 533         | 3,449       | 〃            | 〃              | 32,544      |     |
|               | 児童       | 9,642       |             |                | 1,287           | 321         | 1,463       | 〃            | 〃              | 12,713      |     |
|               | 雑誌       | 2,418       |             |                | 431             | 147         | 150         | 〃            | 〃              | 3,146       |     |
|               | 視聴覚      | 2,724       |             |                | 1,114           | 166         | 281         | 〃            | 〃              | 4,285       |     |
| 12 職員数(司書)    |          | 13(7)       |             |                | 5(3)            |             | 5(2)        | 1(0)         | 5(1)           | 29(13)      |     |
| 常勤臨時司書        |          | 1           |             |                | 6               |             |             |              |                | 7           |     |
| 臨時職員(司書)      |          | 26(4)       |             |                | 12(1)           |             | 14(1)       | 3(0)         | 19(5)          | 74(11)      |     |
| 13 開館日数       |          | 276日        |             | 137日           | 273日            | 267日        | 262日        | 290日         | 280日           |             |     |
| 14 駐車台数       |          | 58台         |             |                | 27台             | 14台         | 85台         |              | 68台            |             |     |
| 15 駐輪台数       |          | 153台        |             |                | 60台             | 30台         | 80台         |              | 80台            |             |     |
| 16 収容冊数       | 合計       | 243,000     | 95,000      | —              | 182,000         | 34,000      | 120,000     | 15,000       | 75,000         | 764,000     |     |
|               | 開架       | 97,000      | 0           | —              | 124,000         | 25,000      | 50,000      | 15,000       | 50,000         | 361,000     |     |
|               | 閉架       | 146,000     | 95,000      | —              | 58,000          | 9,000       | 70,000      | 0            | 25,000         | 403,000     |     |

※4の数字は平成16年度決算額(人件費含む) ※5～11・13の数字は平成17年度 ※12の数字は平成18年8月(臨時職員数は、休日のみ勤務等も含めた雇用者数) (平成18年8月現在)

(出典：平成17年度図書館年報をもとに作成)



### 3.2.3 サービス体制

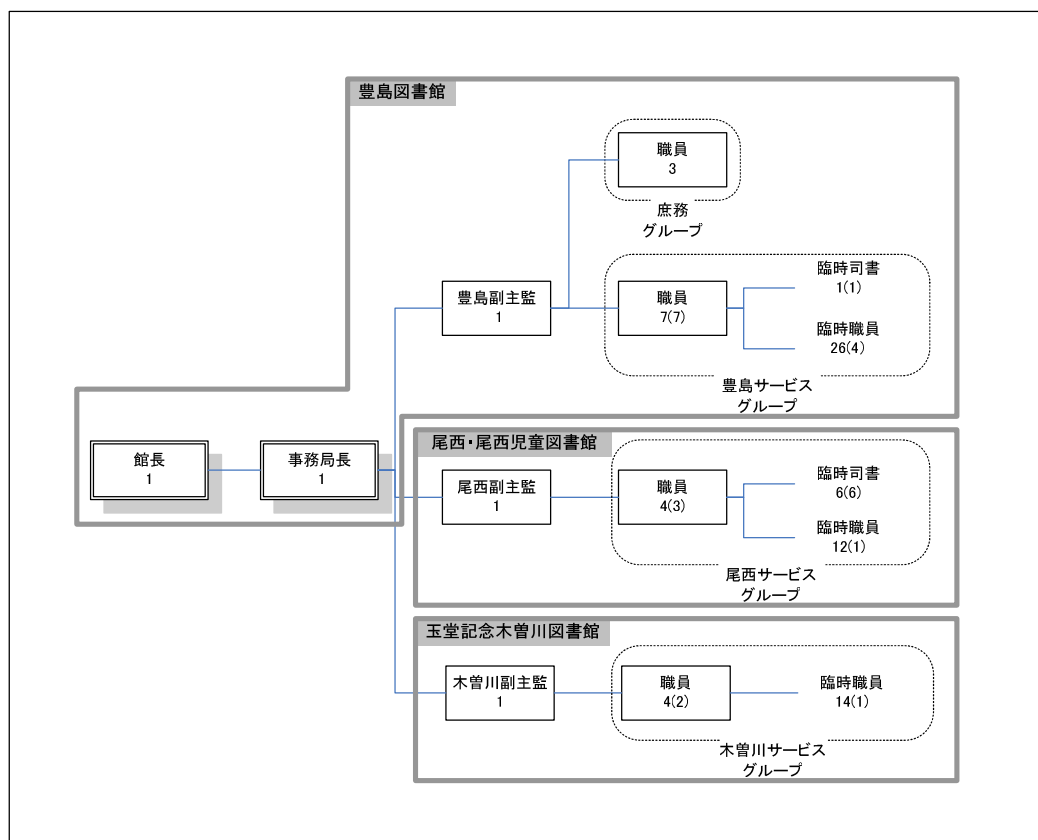
市立図書館の現在のサービス体制については、以下の通りである。

表 2 市内各館におけるサービス体制

|          | 豊島                                                                  | 子ども文化      | 地域文化 | 尾西                                   | 尾西児童        | 木曽川                                    |
|----------|---------------------------------------------------------------------|------------|------|--------------------------------------|-------------|----------------------------------------|
| 開館時間     | 10:00～18:00<br>※夏期のみ<br>9:00～19:00                                  | 9:00～17:00 |      | 10:00～18:00<br>※木曜日のみ<br>21:00 開館    | 10:00～17:00 | 10:00～18:00<br>※夏期のみ<br>9:00～19:00     |
| 休館日      | 月曜<br>祝日の翌日<br>第3木曜日<br>年末年始<br>特別整理期間                              |            |      | 月曜、<br>祝日の翌日<br>月末<br>年末年始<br>特別整理期間 |             | 月曜<br>祝日の翌日<br>第3金曜日<br>年末年始<br>特別整理期間 |
| 個人貸出     | 図書・雑誌は10点まで、AV資料は5点まで<br>複製絵画は1点まで（全て併せて10点まで）<br>期間は2週間（複製絵画は30日間） |            |      |                                      |             |                                        |
| 団体貸出     | 5人以上の読書団体に対して<br>1か月100冊以内                                          |            |      |                                      |             |                                        |
| 館外郵送サービス | 身体障害者（3級以上）対象に一般・児童図書<br>視覚障害者（6級以上）対象に点字・録音図書                      |            |      |                                      |             |                                        |

|       |                |
|-------|----------------|
| 移動図書館 | 39ステーション、月1回巡回 |
|-------|----------------|

また、職員体制については、館長、事務局長の下に豊島・尾西・木曽川副主監（各1）が置かれ、4つのグループを管理している（図8参照）。市内全図書館における司書数の合計は、臨時職員を含めて31名である。



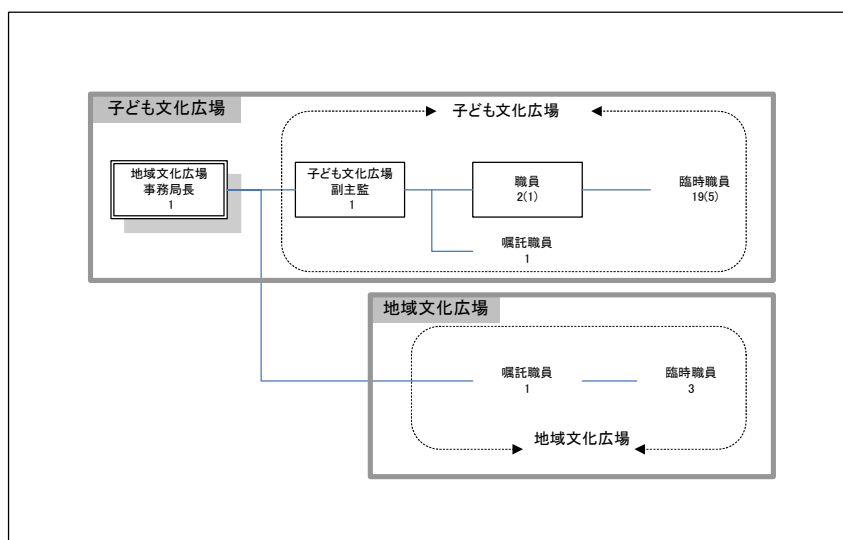
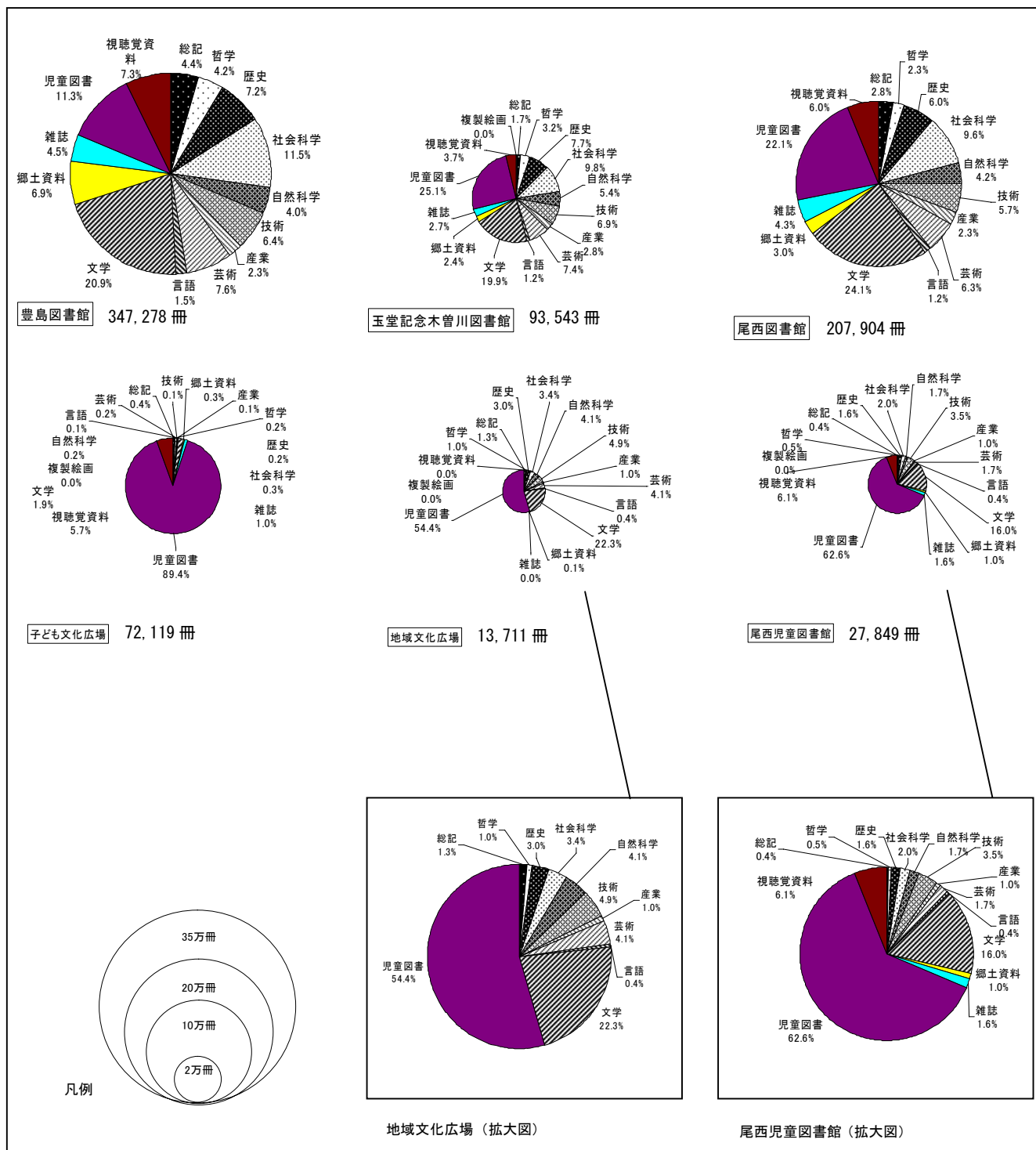


図 8-2 図書館組織図 [子文・地文] (平成 18 年度 8 月時点) ※ ()内は司書数

### 3.2.4 蔵書構成

市内 6 館の全蔵書数は、762,404 冊である。各館毎の蔵書数の比、及び蔵書構成を図示したものが図 9 である。豊島・尾西・玉堂記念木曽川図書館の 3 館については、豊島図書館の郷土資料の割合がやや多い(約 25,000 冊)他は、概ね似通った蔵書構成となっている。

また、特徴的な蔵書として、郷土資料に含まれる繊維関係の資料が豊島図書館に約 4,000 冊、尾西図書館に約 1,000 冊あるほか、有隣舎<sup>13</sup>から寄贈・寄託された約 1,900 冊がある。



(出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成)

図 9 市内各館における蔵書構成

<sup>13</sup> 宝暦 10 年に、尾張藩儒官であった鷺津幽林によって開設された私塾。藩校の「明倫堂」とともに尾張の 2 大塾のひとつとして盛況を呈し、門下からは、大沼竹溪、佐藤牧、森春濤らを輩出したが、明治 40 年頃自然廃止。

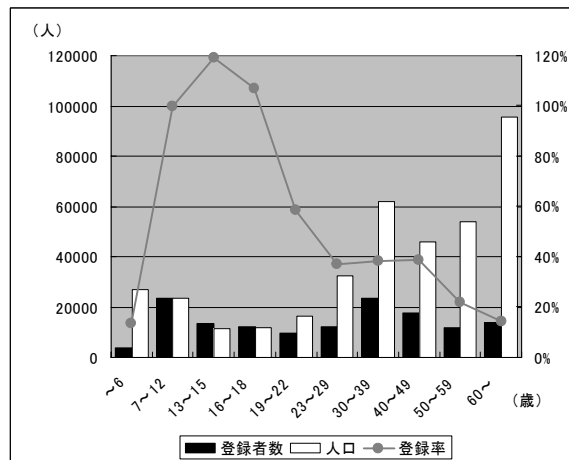
### 3.2.5 利用状況

#### 1) 登録状況

登録者数は 118,696 人と、市内人口の 31.3% が利用登録を行っている。

登録率が高いのは 7～12 歳、13～15 歳、16～18 歳で、これは旧一宮市の学校図書館と市内図書館の貸出カードの共通利用が行われているためと考えられる。逆に登録率が低いのは 60 歳以上で、50～59 歳がそれに次ぐ。特に 60 歳以上の登録率については約 15%と、非常に低くなっている。登録については、学生が多く、高齢者が少ないという状況が見られる。

| 項目         | 定義        | 指標                         |
|------------|-----------|----------------------------|
| 登録率        | 登録者数／人口   | 118,696／378,725＝ 31.3（％）   |
| 登録者 1 人当たり |           |                            |
| 蔵書冊数       | 蔵書冊数／登録者数 | 762,404／118,696＝ 6.4（冊）    |
| 貸出冊数       | 貸出冊数／登録者数 | 1,836,937／118,696＝ 15.4（冊） |
| 蔵書回転率      | 貸出冊数／蔵書冊数 | 1,836,937／762,404＝ 2.4（回）  |



(出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成)

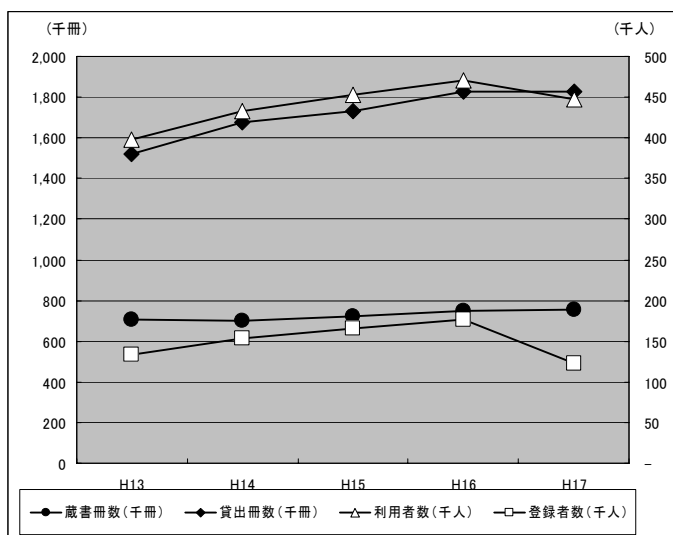
※人口よりも登録者数の多い年代については、重複登録及び市外登録者数が含まれるためと考えられる。

図 10 年代別人口・登録者数（平成 17 年度）

#### 2) 貸出状況

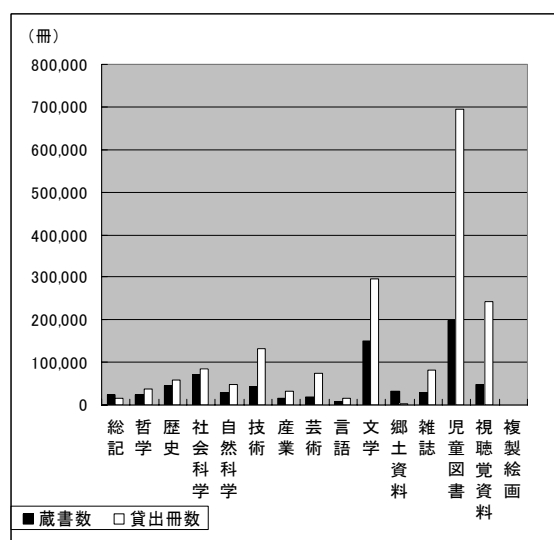
蔵書冊数の増加に伴い、貸出冊数も増加傾向にあるが、合併に伴う蔵書管理システムの統合により、登録者数・利用者数については、平成 17 年度は減少している。

また、分類別の貸出状況については、児童図書が最も多く、次いで文学、視聴覚資料となっている。特に児童図書と視聴覚資料については、蔵書数に比べて貸出冊数が大幅に多くなっている。



(出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成)

図 11 利用の推移（平成 17 年度）

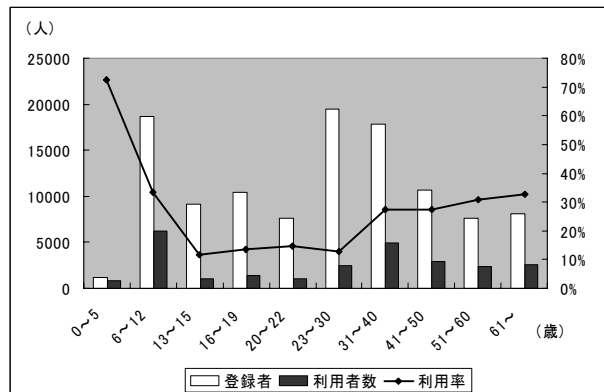


(出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成)

図 12 分類別蔵書数・貸出冊数（平成 17 年度）

平成 16 年度に豊島図書館で実施したアンケート結果をみると、年齢別の利用者数では、小学生の 6～12 歳が最も多く、次いで 31～40 歳代が多くなっている。

また、利用率<sup>14</sup>については、0～5 歳が最も高く（登録者の 7 割以上が利用）、31 歳以上は概ね 3 割の利用率がある一方、中学生から 20 代の若い世代の利用率が低い結果となっている。



(出典：平成 16 年度『豊島図書館利用者アンケート調査』報告書をもとに作成)

図 13 豊島図書館年齢別登録者数・利用者数・利用率（平成 16 年度）

### 3.2.6 図書館情報システム

図書館情報システム及び MARC は、平成 17 年の市町合併を機に下記に統一された。

- ・ システムソフトウェア：NEC ネクサソリューションズ (LiCS-RⅢ)
- ・ MARC：TRC MARC

### 3.2.7 市外とのネットワーク

#### 1) 東海地区図書館協議会による相互利用

東海地区では、東海地区図書館協議会による相互利用が充実しており、「資料相互利用に関する協定の制定 2005 年 5 月 11 日」に基づき、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県にまたがる公立図書館、大学図書館計 76 館（平成 18 年 4 月現在）が相互利用を行っている<sup>15</sup>。うち、地方公共団体は 57 館加盟している。

#### 2) 岐阜・三重・富山県－愛知県間の相互利用

愛知県内においては、県立図書館は岐阜県図書館・三重県立図書館・富山県立図書館との間に定期便を設置しており、それぞれの県内の各市町村立図書館が個別に相互貸借を行うのではなく、各県立図書館を中継地として資料が一括して送られる仕組みとなっている。愛知県図書館を始め、県内の市町村立図書館 75 館及び分館 16 館の計 92 館（平成 17 年 4 月時点）が加盟し、岐阜・三重・富山県との相互利用を行っている。

### 3.2.8 学校支援

学校との連携については、蔵書検索システムを利用した小中学校読書支援事業を推進し、「朝の読書」や「調べ学習」への図書資料の提供等が行われている。また、団体貸出による支援や、移動図書館の配車等により、子どもの読書環境の整備に向けた支援が行われている。

<sup>14</sup> 利用者数を登録者数で除したもの。

<sup>15</sup> 東海地区図書館協議会のホームページより。

### 3.3. 駅ビル建替え構想

#### 3.3.1 尾張一宮駅周辺地域再生整備事業

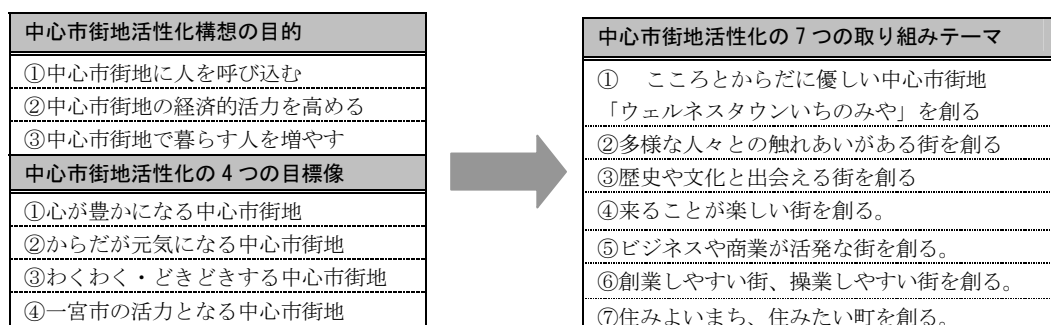
一宮駅周辺では、建設から 50 年以上経過した JR 尾張一宮駅舎の老朽化が進んでおり、有効な土地利用・施設の利用、市の玄関口としてのイメージの向上などの観点から、更新を望む市民の声が高まっている他、一宮市経済を長年にわたり支えてきた繊維産業の低迷や、郊外部における巨大商業施設の立地などを背景として、従来の中心市街地にあたる尾張一宮駅周辺地域では都市機能の相対的な衰退、特に商業機能の低下が顕著となっている。そのため、平成 12 年には『中心市街地活性化基本計画』が策定され、一宮駅を含む 180ha の中心市街地において様々な活性化事業の展開が図られたが、中心市街地における中小小売り商業を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっている。

そうした中、平成 16 年 6 月に地域再生計画『駅周辺のストックを活かした「歩いて暮らせる中心市街地にぎわい再生計画」』の認定を受け、その支援策である地域再生マネージャー事業の活用により、「尾張一宮駅周辺地域再生整備事業」による中心市街地活性化を進めている。

この事業の中で、尾張一宮駅周辺地域を質の高い都市サービス拠点として、また、既存の商業者・事業者の再活性化と共に新たな経済活動を産み出す拠点とするために、中心市街地活性化事業を進めるとともに、中心市街地のシンボルとなる尾張一宮駅ビル建設の計画を推進している。

#### 1) 中心市街地活性化構想について

中心市街地活性化事業の実施にあたっては、平成 16 年度にそのマスタープランとなる「中心市街地活性化構想」が策定され、4 つの目標像、7 つの取り組みテーマ（図 14 参照）が掲げられた。これらの目標像、テーマ等においては「健康」がキーワードとなっており、「市民の健康増進に貢献する中心市街地」を形成し、一宮市全域における「こころとからだが健康なまち＝ウェルネスタウンいちのみや<sup>16</sup>」を形成することを目指した取り組みがなされている。



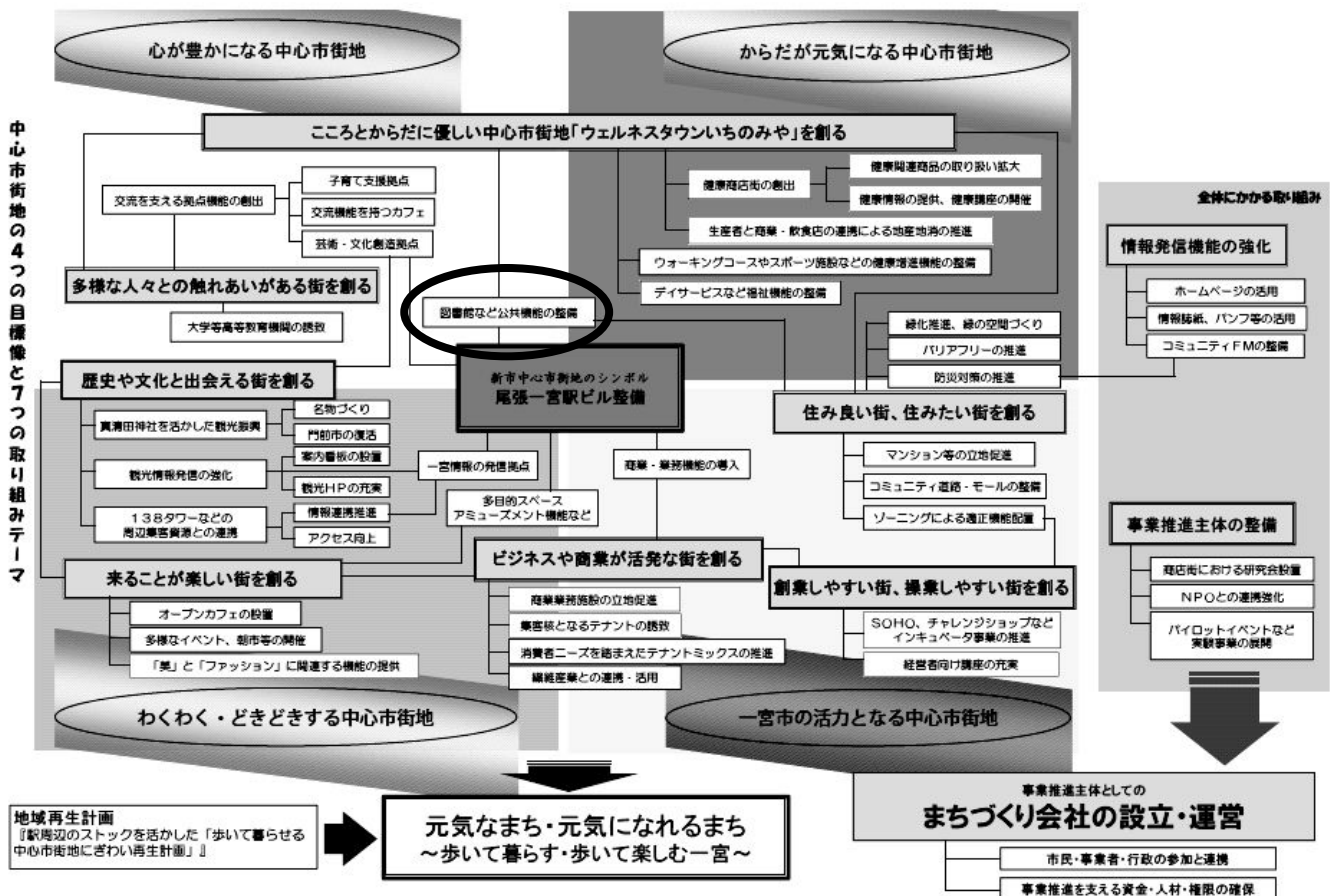
（出典：平成 16 年度『尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』をもとに作成）

図 14 中心市街地活性化構想の目標及びテーマ

<sup>16</sup> 「ウェルネスタウンいちのみや」とは、美しく健やかなころとからだの形成を支援するまち、一宮独自の文化や産業を生み出すにぎわいのあるまち、安全・快適で良好な生活環境のまちのことを意味している。

そして、7つの取り組みテーマに沿って、下記のように、中心市街地活性化事業体系図（エラー！参照元が見つかりません。参照）を作成し、各事業の実施、検討を進めている。

活性化事業の実施にあたっては、尾張一宮駅の中心市街地の活性化・賑わいの創出と、そのシンボルとなる尾張一宮駅ビルが施策の二本柱となっており、駅周辺のストックを活かし、「健康商店街研究会」の立ち上げ、チャレンジショップ・SOHO オフィスの運営、オープンカフェの設置などの事業を進めるとともに、尾張一宮駅ビル事業の事業化検討等が行われている。



（出典：『平成 16 年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事報告書』より）

図 15 一宮市中心市街地活性化事業体系図

## 2) 尾張一宮駅ビル構想について

平成 16 年度には、市民アンケート及び中心市街地活性化推進協議会での意見、ならびに導入が想定される公共施設を踏まえた上で、駅ビルに求められる機能等が検討され「一宮市による尾張一宮駅ビル構想（案）」（表 3 参照）が策定されるとともに、公共施設の導入についての検討が行われた。さらに、翌年度には、基本構想並びに民間事業者のヒアリング結果を踏まえ、施設内容が設定された（表 4 参照）。施設の規模・機能等については、今後、具体的な施設計画の検討を進めていく予定である。

表 3 尾張一宮駅ビル構想（案）の骨子

|                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>駅ビル整備の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 38万都市／新市・一宮の顔となる駅前にふさわしい景観の形成</li> <li>■ 中心市街地活性化＝ウェルネスタウン実現の一翼を担う拠点の形成</li> <li>■ “遊び心”と“夢”のある賑わい空間の形成</li> </ul>                                                   |
| <b>駅ビルに求められる機能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 交流 多種多様な世代・主体が交流・参加する場</li> <li>■ 育成 人・文化・産業を育成する場</li> <li>■ 支援 市民生活・地場産業をサポートする場</li> <li>■ 創造 一宮の新たな価値を創造・発信する場</li> <li>■ 集客 外部から人を集め、中心市街地へ流入させる場</li> </ul> |
| <b>事業の前提</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一部公共施設を導入するものの、安定的・継続的に自立運営が可能な施設</li> </ul>                                                                                                                            |
| <b>施設構成の考え方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駅の利便性を活かした機能性の高い施設の導入が必要</li> <li>■ 集客力やテナント誘致を強化・誘発するために、来訪者の回遊性、施設間の相互交流を高める施設構成・動線計画が必要</li> <li>■ 安定的・継続的に賃料収入が得られる施設の導入が必要</li> </ul>                           |

（出典：『平成16年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』をもとに作成）

表 4 導入機能

| 区分     | 施設         | 内容                                                    | 規模           |
|--------|------------|-------------------------------------------------------|--------------|
| 公共公益施設 | 市立図書館      | ・新市の中央図書館にふさわしい機能・設備の充実した施設                           | 約7,000㎡      |
|        | 市民活動支援センター | ・市民活動団体等の情報発信や交流・活動拠点となる施設                            | 300㎡         |
|        | 子育て支援センター  | ・乳幼児連れの親子が自由に交流できる場や、子育て情報の提供、子育て相談等、多様な子育て機能を備える拠点施設 | 400㎡         |
|        | 観光案内所      | ・観光案内、イベント情報や特産品の販売等を行い、一宮市を広くPRする施設                  | 40㎡          |
|        | 一宮駅交番      | ・市民の安全、地域の治安の確保を図るとともに、市民サービス機能としての施設                 | 100㎡         |
| 民間施設   | 商業         | ・中心市街地や隣接する百貨店・商業施設とは異なる商業テナントの誘致                     | 1,050～1,190㎡ |
|        | フィットネス     | ・ジム、スタジオ、プールを備えた施設                                    | 0～2,900㎡     |
|        | 事務所        | ・民間テナント、商工団体、大学のサテライトキャンパス（一部、多目的ホールとしての利用を想定）        | 2,490㎡       |
|        | ホテル        | ・市内・地域におけるビジネスシーンをサポートするホテル（宿泊特化型で一部セミスイート等を導入）       | 4,025㎡       |
| 駐車場    |            | ・施設全体のための自走式立体駐車場（最低限の付置義務台数を確保）                      | 4,895～5,705㎡ |

（出典：『平成17年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』をもとに作成）

### 3.4. 市民要望

平成 16 年度から 18 年度にかけて実施されたアンケートをもとに市民要望を整理する。

#### 3.4.1 『豊島図書館利用者アンケート調査』（平成 17 年 2 月実施）

市町合併後の図書館同士の連携を密にし、サービスの向上を図るために、豊島図書館においては利用実態や意向・要望を把握するための来館者調査が行われた。

調査では、市外からの来館者が約 7%を占めており、その利用目的としては会社関係や営業関係の利用が多い結果となっている。また、主な交通手段としては、自転車・自動車での来館が全体の約 90%を占めている。充実して欲しい図書としては、「趣味・娯楽書」、「文学書」が多く挙げられており、自由意見においては会社関係等の専門書の充実、マンガ、ヤングアダルト向けの図書等への要望が見られた。充実して欲しい視聴覚資料に関する設問においては無回答が約 2 割で、よく利用する部屋についての設問で試視聴室は最下位である他、自由意見においても試視聴室を知らなかったとの意見も見られる。

また、施設・設備に関する自由意見としては、グループで話し合いや議論を出来る場、パソコンを利用できる設備、学生以外を対象とした学習室、駐車台数の改善等への要望が見られる。

#### 3.4.2 『第 6 次一宮市総合計画市民アンケート調査』（平成 17 年 11 月実施）

平成 17 年度の市町合併を受け、新しい一宮市の総合計画（第 6 次一宮市総合計画）を策定するにあたり、市民の考える「住みよいまち・住みたいまち」を明らかにするため、住みよさのキーワードの優先度と生活課題の重要度が測定された。

図書館については、「《ふれあい》 地域の人と人がふれあい、文化を大切にする一宮市」というキーワードにおいて触れられており、「図書館が充実しており、一宮市にゆかりのある図書も豊富に収蔵され、世代を超えて活用し楽しんでいる」ことが重要とする回答が全体の 32.3%であった。これにより、市民の間では図書館は資料・情報の拠点としての機能だけでなく、に交流・文化の拠点としての機能が望まれていることが分かる。また、自由意見においては、開館時間・職員の対応・施設規模・開架冊数・検索システム・駐車台数等の改善に対する要望が見られた。

#### 3.4.3 『(仮称) 中央図書館整備基本計画に関するアンケート調査』（平成 18 年 8、9 月実施）

(仮称) 中央図書館のあるべき図書館像、サービスや施設整備の水準等について「(仮称) 中央図書館整備基本計画」としてまとめるにあたり、市民及び図書館利用者を対象としたアンケートを行った。アンケート結果による市民要望の概要については、以下の通りである。

## 1) アンケート概要

### ① 市民アンケート

対 象：13 歳以上の市民 3,000 人を無作為抽出

調査方法：郵送配布・回収

調査期間：平成 18 年 8 月 24 日～9 月 4 日

総配布数：3,000 票

有効回答数（有効回答率）：968 票（32.3%）

### ② 利用者アンケート

対 象：市内図書館 4 館(豊島、尾西、玉堂記念木曽川、子ども文化広場)利用者

調査方法：直接配布・回収

調査期間：平成 18 年 9 月 3 日（日）、9 月 6 日（水）

総配布数：2,500 票

有効回答数（有効回答率）：2,017 票（80.7%）

## 2) アンケート結果

### ① 図書館利用の目的について

図書館利用の目的としては、本の貸出、返却が最も多い(利用者 64.3%、市民 70.2%)。そのため、1 回あたりの滞在時間についても、1 時間以内との回答が圧倒的に多くなっている（利用者 54.4%、市民 61.6%）。しかし、中央図書館に対しては、「余暇を楽しむことが出来る、目的がなくても気軽に立ち寄れる」ことを望むとの回答が多いことから、滞在型の図書館への要望があることが分かる。

また、市民アンケートにおいては、「60 歳代」、「70 歳代」の回答者の図書館利用の目的では「行事や講座に参加」（60 歳代：10.6%、70 歳代：13.8%）「くつろぎの場」（60 歳代：6.4%、70 歳代：17.2%）への回答率が高く、高齢者にとって図書館は憩いの場として捉えられていることが分かる。

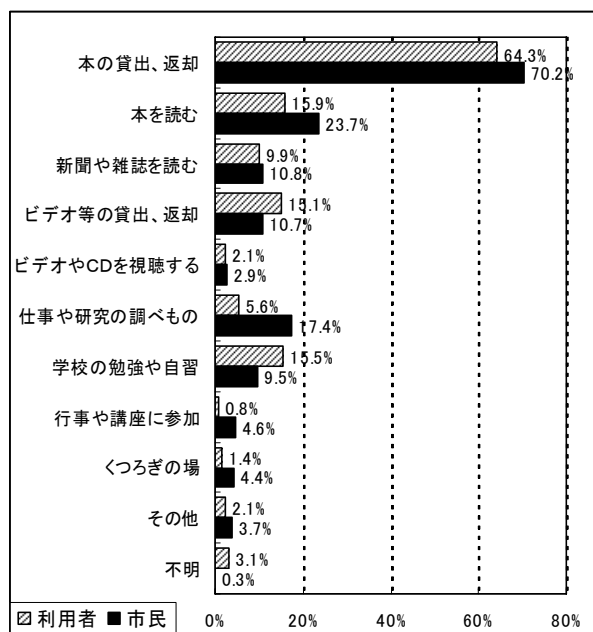


図 16 図書館利用の目的

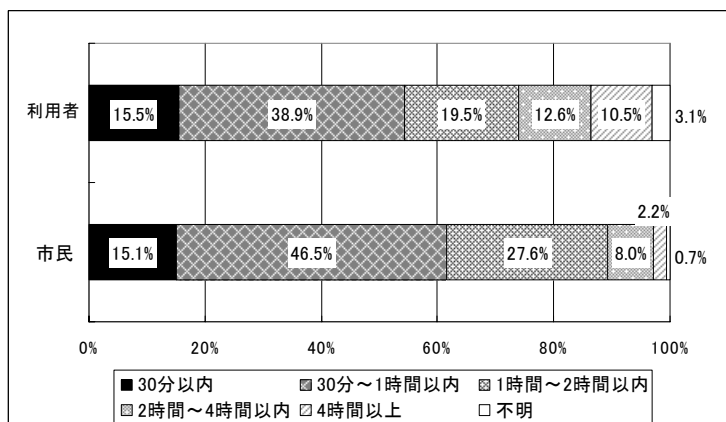


図 17 1 回あたりの図書館滞在時間

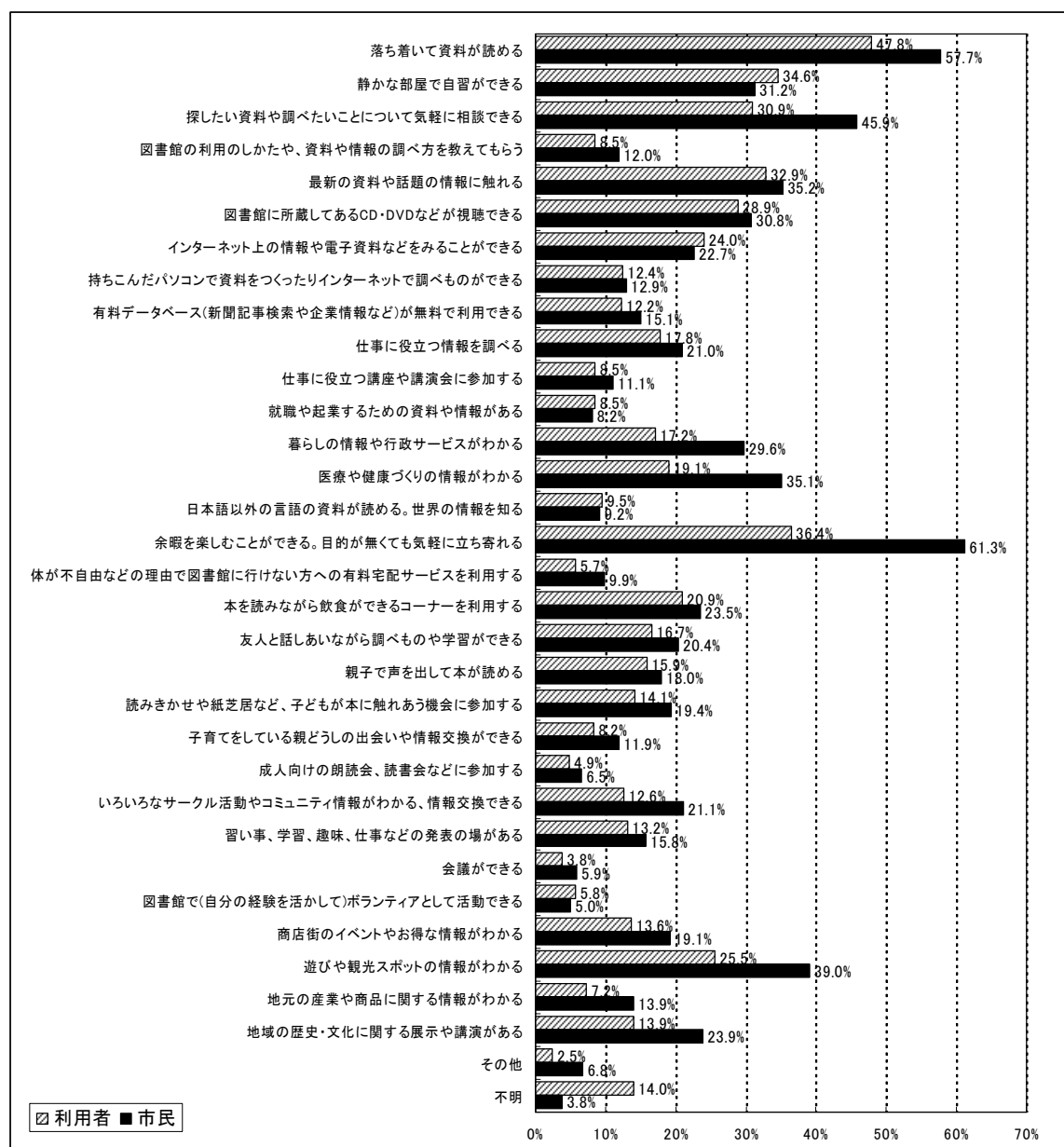


図 18 中央図書館でどのようなことができれば良いか

## ② 資料・情報について

利用者アンケートにおいては、図書館資料の量や種類に満足していないとの回答が31.9%であった。特に、19歳～50歳代の利用者や、移動図書館（ほたる号）利用者からの不満が多いことから、これらの利用者ニーズへの対応の必要がある。また、中央図書館に充実を望む資料としては、趣味・娯楽書が最も多く、次いで文学書・専門書となっている。その他、雑誌、絵本、児童書、DVD・ビデオ等へのニーズも見られた。

また、中央図書館に望むこととしては、「会社員」、「自営業」の回答者には「仕事に役立つ情報」に関するニーズが多いほか、「専業主婦」の回答者からは子育て情報に対するニーズも多く見られた。

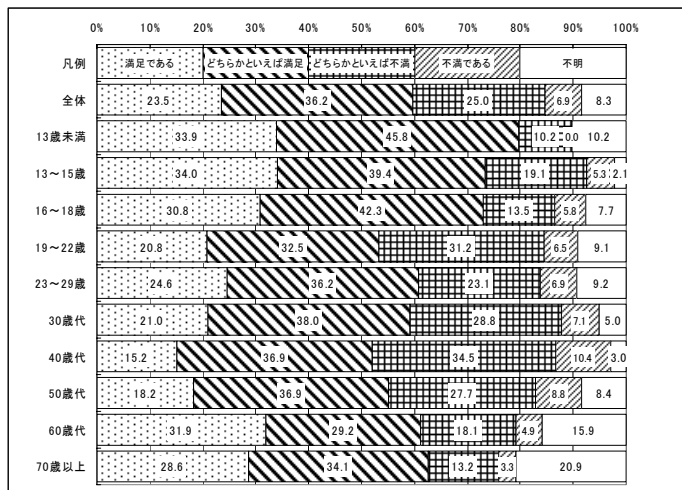


図 19 年代別の資料の量・種類に対する満足度

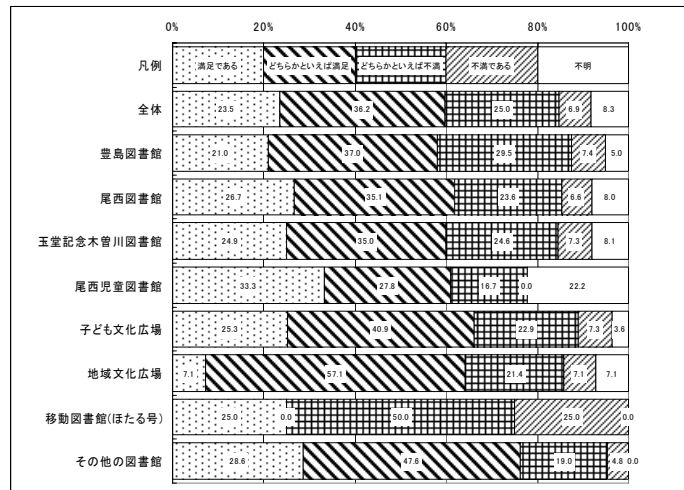


図 20 図書館別の資料の量・種類に対する満足度

### ③ 開館日・開館時間について

利用者アンケートによると、開館日・開館時間帯に満足していないとの回答が 27.8% であった。特に、学生・会社員の利用者、豊島図書館・地域文化広場の利用者からの不満が多い。今後はより多くの市民が利用しやすい開館日・開館時間の設定が必要となる。

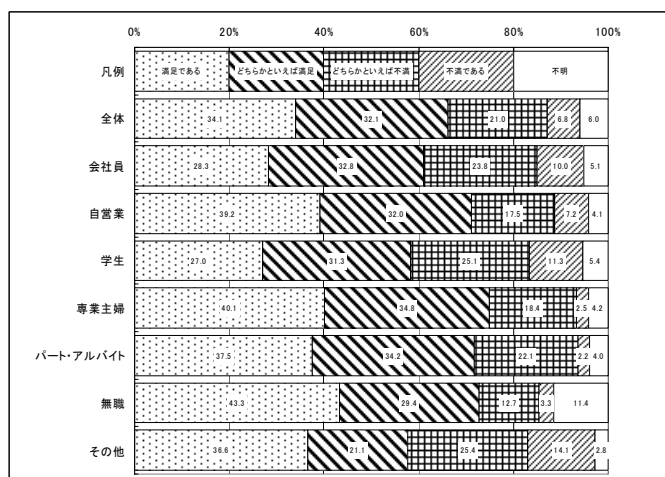


図 21 職業別の開館日・開館時間に対する満足度

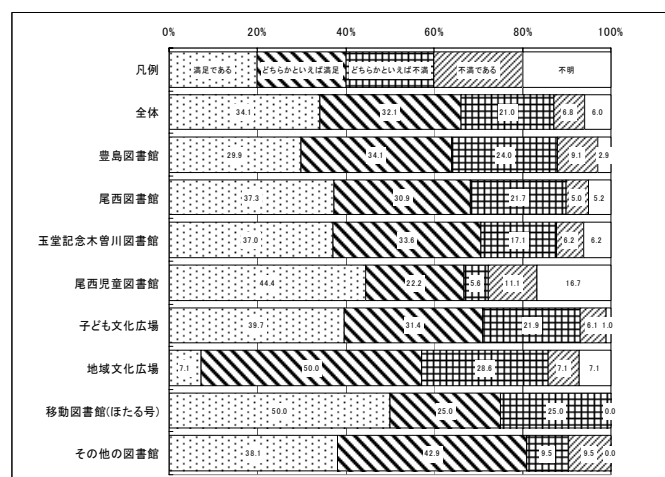


図 22 図書館別の開館日・開館時間に対する満足度

### ④ 図書館利用の地域格差について

市民アンケートによると、図書館利用の有無に地域格差が見られる。過去 1 年間に図書館を「利用したことがある」との回答が多いのは、「北方地区」(75.0%)、「木曽川地区」(73.2%)であり、旧木曽川町での利用率が高い。これは、玉堂記念木曽川図書館が整備された影響によると考えられる。逆に、「利用したことがない」との回答が多いのは、「浅井地区」(60.5%)、「萩原地区」(47.1%)、「丹陽地区」(41.4%)などであり、市の縁部の地区が多い。今後はこれらの地区の利用を促進するような取り組みも必要と考えられる。

#### 3.4.4 ヒアリング結果

中央図書館整備に関して市内の図書館ボランティア団体、図書館利用団体、福祉団体にヒアリングした結果、以下のような意見があった。

##### 1) 図書館ボランティア団体

- 中央図書館の整備を機に、中央館と地域館との役割分担について検討が必要。
- 駅ビル立地という特性を活かし、通勤・通学者層を対象としたサービスの提供が必要。
- 駅ビルに中央図書館が設置された場合、駐車場が有料となるのが心配である。

##### 2) 図書館利用団体

- 若い人がサークルに参加するような仕組みが欲しい。中央図書館に各利用団体の発表の場を設けることで、活動の活性化につながる。
- 中央図書館として全市民が利用しやすいことが大切であり、公共交通の整備を含めて検討する必要がある。

##### 3) 福祉団体

ヒアリング実施後に、追記  
予定。

### 3.5. 中央図書館整備にあたっての課題

#### 3.5.1 現行図書館の問題点と課題

##### 1) 市域全体のネットワークの充実

###### ① 市内全域における一元的なサービスの提供

本市は、平成 17 年度に 2 市 1 町が合併したため、それに伴い図書館サービスの対象地域も拡大した。合併にあたっては、図書館システムの統一、移動図書館のサービスステーションの追加<sup>17</sup>が行われたが、サービスの提供は依然として合併前の 3 地区に分かれて行われている。今後は、市域全体の図書館ネットワークを形成することにより、市内全域における一元的なサービスの提供を図る必要がある。

###### ② 中央図書館を中心とした市内図書館ネットワークの形成

市町合併後は、豊島図書館が中央館としての役割を担っているが、館長・事務局長を配置している点、移動図書館を運営している点以外には特に特徴的なサービスは行われていない。今後は、中央図書館を市内図書館の中核に位置づけることにより、市内図書館ネットワークの形成、ネットワークに基づいた図書館間の協力体制の確立を図る必要がある。

###### ③ 各図書館の役割分担、蔵書構成、サービスの見直し

図書館サービスの対象地域の拡大と共に、中央館、地域館それぞれの役割についても見直す必要がある。現在、豊島・尾西・木曽川の 3 館においては、ほぼ横並びのサービスが展開されている。また、豊島・尾西の 2 館においては、蔵書冊数が収蔵能力を上回るという状況も見られる。中央図書館の整備を機に、各館の役割、蔵書構成、サービスについて検討し、効率的な図書館運営を図る必要がある。

###### ④ 市外図書館や学校、関連施設との連携の充実

現在は、合併前の図書館ネットワーク体制が残っており、その中核となる図書館が明確でないことなどから、市外図書館や市内関連施設との連携も十分とはいえない。今後はこれらの施設との連携を強化することにより、より充実したサービスの提供、サービスの質向上を図る必要がある。また、子どもの読書活動や学習活動の推進に向け、学校図書館に対する支援についても積極的に行っていく必要がある。

##### 2) 市民の多様な学習ニーズへの対応

###### ① 高度で専門的なサービスの充実

現在、豊島・尾西・玉堂記念木曽川の 3 館においては、貸出サービスの他、読み聞かせ、講座・講習会、除籍資料のリサイクル、中学生の職場体験学習等、ほぼ横並びのサービスが提供されており、蔵書構成も概ね似通っている。今後は、中央館として、市内全域の市民を利用対象とした、より高度で専門的な図書館サービスの提供につい

<sup>17</sup> 平成 17 年度より 3 ステーションが追加された（尾西地区：開明小学校・朝日西小学校、木曽川地区：木曽川東小学校）

て、その提供方法、豊富な情報量の確保等について検討の必要がある。

## ② 資料収集と蔵書構成の充実

アンケートにおいては、図書館の図書・雑誌・AV 資料の量や種類を不満とする回答が多く見られる他、文学書・娯楽書・専門書・雑誌・児童書・DVD・ビデオ等の資料の充実を望むとの回答が見られた。今後は、市民の効果的・効率的利用が可能となるような蔵書の充実を図り、多種多様な資料要求に応える必要がある。それに加えて、市民の調査・研究・学習を支援するようなレファレンス機能についても、その更なる充実が必要となる。

## ③ 高度情報化への対応

現在、豊島・尾西・玉堂記念木曽川・子ども文化広場にはそれぞれ web ページの閲覧を目的としたインターネット端末が設置されている。しかし、各館 1 端末ずつの設置であるため、その数が不足している。また、その利用能力を持つ人と持たない人との間におけるデジタル・ディバイド<sup>18</sup>の発生も懸念される。今後はこれらの問題に配慮しつつ、情報通信技術を効果的に活用していく必要がある。さらに、電子資料の充実や、外部データベースからの情報入手等についても検討の必要がある。

## ④ 国際化への対応

社会の幅広い分野における国際化の進展と共に、本市においても市民が国際理解や多文化理解を深めることが必要とされている。また、本市は県内で 8 番目に外国人登録者数の多い市であることから、図書館においても在留外国人のためのサービス提供が不可欠と考えられる。しかし、現在、外国語による利用案内書等は設置されていない。今後は市民の国際教育への貢献、外国人をはじめとする様々な文化的背景を持つ人を対象にしたサービスの展開についても検討し、幅広い市民の学習ニーズに応えることが課題となる。

## ⑤ 若年層の読書活動の推進に向けた対応の充実

近年、若年層を中心とした活字離れが進んでおり、人間形成に果たす読書の役割の大切さが再認識されつつある。本市においては、市立図書館と旧一宮市内の学校図書館のカードが統一されていることもあり、若年層の利用登録率は高い。しかし、実際の利用については、中学生から 20 代の利用率が低いという状況が見られる。今後は、子どもだけでなく、若年層の読書活動の推進に向けた対応の充実が望まれる。

## ⑥ 図書館に来館出来ない市民への対応の充実

現在、豊島図書館においては、移動図書館の運営及び、障害者に対する郵送サービスが行われている。しかし、障害者の他にも、自宅からの外出が難しい高齢者、病院・養護施設・老人ホーム・介護施設等の入所者も図書館の利用が困難と考えられる。今後の高齢化社会の進展により、これらの図書館へ来館出来ない人々も増加すると考え

<sup>18</sup> インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差。

られることから、こうした人々への対応の充実についても課題となる。また、浅井・萩原・千秋といった市立図書館から離れた地区の居住者については、図書館の利用が少なく、利用頻度も低いという状況が見られることから、こうした図書館利用の地域格差についても対応を充実する必要がある。

#### ⑦ 市民の多様なニーズに対応出来るスタッフの配置

市内部の異動等の関係で、図書館では長期にわたり経験を積んだスタッフが不足している。資料の選択、組織化、利用者からの相談への対応などは、専門的教育を受けた上で現場経験を積むことにより、的確に行うことが可能となる。今後は、市民の高度かつ多様なニーズに対応するため、有資格者かつ経験を積んだ職員の充実した配置についても検討の必要がある。

また、より高度なサービスの提供に向け、ビジネス・福祉・多言語等の能力を持つスタッフの配置も望まれる。

#### ⑧ 市民の多くが利用しやすい開館日・開館時間帯の設定

現在の市立図書館の開館時間は基本的に 10:00～18:00 となっており、夜間開館しているのは尾西図書館（毎週木曜日、21:00 まで）のみという状況となっている。そのため、会社員や学生にとっては利用しづらい時間設定となっており、アンケートにおいても開館日・開館時間を不満とする回答が多く見られた。そのため、今後はより多くの市民が利用しやすいような開館日・開館時間の設定が望まれる。

#### ⑨ 施設・設備面の充実

市立図書館 6 館のうち、豊島図書館・尾西図書館・尾西児童図書館・地域文化広場では施設の老朽化が進んでいる。特に豊島図書館については、築 40 年以上が経過しており、エレベーターがないことなども問題となっている。今後は、施設・設備面での充実を図ることにより、より多くの市民の快適な利用を支援する必要がある。

### 3) 地域におけるふれ合い、情報収集の場としての取り組みの充実

#### ① 余暇を楽しむ場、ふれ合いの場としての取り組みの充実

現在の市立図書館は、市民にとって本を借りて帰る場として利用されることが多く、図書館への来館目的としては本の貸出・返却が圧倒的に多い。そのため、1 回あたりの滞在時間についても、1 時間以内が最も多くなっている。しかし、今日の余暇・自由時間の増大と共に、市民がくつろぎながら楽しく時間を過ごすことの出来る滞在型の図書館が求められている。今後は、図書館に多様な資料、人々が集まることで、余暇を楽しむ場、新たなふれ合いの場としての機能を持つことが期待される。

#### ② 地域の課題の解決に向けた取り組みの充実

近年、図書館には地域の課題解決拠点としての役割が望まれつつある。本市においても少子・高齢化、産業構造の変化、コミュニティの希薄化、外国人登録者数の増加

等の影響による諸課題について、図書館サービスとして対応を充実していくことが必要である。

例えば高齢化対策については、図書館は高齢者が地域社会に参加する際に最も参加しやすい場の1つと考えられている<sup>19</sup>が、市内の60歳以上人口の図書館利用登録率は約15%と非常に低く、高齢者のニーズに合った講演会、講座等が的確に開催出来ない状況にある。

今後は、図書館を舞台に市民が学習活動や文化的活動を進めることにより、地域の課題の発見・解決へとつながるような仕組みづくりを行うことが課題となる。

### 3.5.2 駅ビル図書館としての課題

#### 1) 駅ビルとしてのポテンシャル

尾張一宮の駅前の立地特性は以下のように整理できる。

- JR、私鉄3路線とバス網が集中し、通勤、通学、買い物等の利便性が高い。
- 駅利用者数が市内で最大である。
- 市内最大の商業集積地である。
- 一宮市役所が近く、周辺の公共公益機能が集積している。
- 尾張の「一の宮」である「真清田神社」の最寄り駅である。

#### 2) 中心市街地活性化への寄与

表3に示した駅ビル整備の目的にもある通り、尾張一宮駅ビル事業は、中心市街地活性化資する拠点形成の役割を担っている。その一機能として図書館の導入が検討されていることから、中央図書館の空間・サービスには以下の役割が期待されている。

##### ① 交流の場としての役割

多種多様な世代・主体が交流・参加する場として、他の公共公益機能や民間施設との連続性、一体性のある空間形成やしかけづくりが必要。

##### ② 育成・支援・創造の場としての役割

人・文化・産業を育成する場としての役割、市民生活・地場産業をサポートする場としての役割を担うことが必要。また、一宮の新たな価値を創造・発信する場として、情報提供空間としての機能だけでなく、情報を提供するサービスの充実が求められる。

##### ③ 集客装置としての役割

外部から人を集め、中心市街地へ流入させる場として、初めて一宮を訪れる人たちへの多様な情報提供や、これまで図書館を利用していなかった市民も日常的に利用したくなる魅力ある情報提供やサービスを充実する必要がある。

#### 3) 他都市の駅前図書館における特徴的なサービス

近年、駅前の複合施設内に図書館の入る事例が多く見られる。それらを以下に示す。

---

<sup>19</sup>小田光宏『図書館サービス論』社団法人日本図書館協会、2005年、p184に詳しい。

① 相模原市立橋本図書館-マルチメディア情報センター<sup>20</sup>（神奈川県、JR・京王線橋本駅）

橋本駅北口直近の再開発ビル「ミウイ橋本」に平成13年9月に開館した。ミウイ橋本は、地下1～5階が民間商業施設、6～9階が公共施設となっており、図書館は6階に位置している。マルチメディア体験室や研修室におけるパソコンの開放の他、特徴的なサービスとして、起業家の自立や新事業の創出、地域経済の活性化の促進に向けたビジネス支援が行われている。

- 有料データベース（日経テレコン）による情報提供
- ビジネスカウンセリング（NPO St-ART に委託）
- ビジネス支援コーナーの設置
- ビジネスに関するレファレンスの実施

② 静岡市立御幸町図書館<sup>21</sup>（静岡県、静岡鉄道新静岡駅）

再開発ビル「ペガサート」の4、5階部分（2,094 m<sup>2</sup>）にある図書館で、平成16年9月に開館した。従来の地域館としての機能を受け継ぐ一方で、同ビル6、7階に併設されている静岡市産官学交流センターと連携することなどにより、以下のような高度なサービスの提供が図られている。

- ビジネス支援サービス
- 郷土の産業・企業に関する資料の提供
- 多言語サービス

③ 結城市立ゆうき図書館<sup>22</sup>（茨城県、JR 結城駅）

結城市民情報センターに併設された図書館で、平成16年5月に開館した。同センターには図書館の他にキッズスペースや多目的ホールなどがある。市民のための複合施設として「人と人、人と情報の交流を通して地域活性化を図ること」が施設全体の基本的な考え方とされ、図書館はその中心的施設としての役割を担っている。地域活性化を目指した情報提供を行うために、以下のようなサービスが提供されている。

- 貸出用ノートパソコン110台（インターネット、DVD 閲覧用）
- オンラインデータベースの無料提供
- 雑誌タイトル数400誌以上

---

<sup>20</sup> 詳細については、<http://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp/hashimoto/index.html> 参照のこと。

<sup>21</sup> 詳細については、<http://tosho.city.shizuoka.jp/toshokan/miyuki/information.htm> 参照のこと。

<sup>22</sup> 詳細については、<http://www.lib-yuki.net/index.html> 参照のこと。

## 4. 基本方針

---

### 4.1. 本市におけるこれからの図書館サービスの在り方

本市におけるこれからの図書館は、全ての市民の生活に結びつき、市民のより充実した生活を支援するためのサービスを提供する。それにより、人々の生活や地域社会におけるさらなる潤いの創出、豊かさの形成を図る。そのため、以下の点を重視する。

#### 1) 全ての市民に充実した図書館サービスを提供する

市内のどこに住む市民でも図書館を利用することが出来るのは勿論のこと、全ての市民が同様に満足のいく図書館サービスを受けられるよう努める。市町合併による市域拡大に対応し、一元的な市内図書館サービス網を運営することにより、市内全域に対して充実したサービスの展開を図る。

また、図書館サービス網における中央館と地域館の役割を明確化し、蔵書規模や蔵書構成、サービス内容等を見直すことなどにより、サービスの質向上、効率的な図書館運営を図る。

#### 2) 社会の変化に対応し、市民生活における生きがい・潤いの創出を支援する

社会の成熟化、高齢化社会への移行、ライフスタイルの多様化などにより、市民の間には、生涯を通じて学び続けたい、学習を通じて生活を豊かにしたいなどの意欲の高まりが見られる。本市における図書館サービスは、こうした市民の学習意欲に応えることにより、人々が充実した文化的生活を送るための支援を行っていく。

また、その際には、市民のニーズにすばやく的確に応えられるよう、社会や時代の変化に対応したサービスの提供に努める。

#### 3) 地域社会における豊かさの創出を支援する

これまで図書館は個人の利用者を中心としたサービスを提供することが多かった。しかし、図書館は様々な世代・職業の人々が自発的に集まる場所であることから、そこを舞台とした学習・文化活動をもとに、人と人との交流、新たな地域文化が創出されることへの期待が高い。今後は、市民に対して求心力と影響力を持つ施設として、人々が集まり、学び、楽しみ、創造し、表現する場となることで、地域社会における豊かさの向上につながるようなサービスの提供を図る。

## 4.2. 中央図書館整備の基本方針

### 4.2.1 基本コンセプト

中央図書館整備の基本コンセプトを以下のように設定する。

#### ひと・まち・暮らしの知恵の輪（和）に 市民や地域の知的・創造活動をつむぐ、 参加型図書館を目指して

「知恵の輪」とは、ひと・まち・暮らしにおける解決すべき課題を表すとともに、「知恵」の「輪」は、知識、文化、情報などのネットワークも表現している。また、「知恵の（和）」とは、人とひとの交流を表している。

中央図書館は、市民や地域の知的活動、創造活動を支援する公共サービスであるとともに、市民が自ら参加し、情報を発信する場としての役割も担う。

そして、一宮市の特色でもある繊維産業を象徴する「つむぐ」という言葉に個性ある地域文化への愛着を育てていく役割を期待するものである。

### 4.2.2 基本方針

上記の基本コンセプトを展開し、以下の3点を基本方針とする。

#### 方針1：図書館ネットワークの中核拠点としての機能充実を図る

市立図書館の中核として図書館ネットワーク体制を確立し、市内の学校図書館・関連施設、市外図書館等と連携することにより、一元的なサービスの提供を図る。市立図書館サービス網の中心として資料・情報の流通を円滑に行うことにより、その有効な利用を促進する。

#### 方針2：市民生活やまちの課題解決に資する、高度で専門的なサービスを提供する

市内全ての市民を利用対象とすることから、専門的資料や地域資料の提供といったサービスの他、情報通信技術等を活用し、多様なメディアを利用したサービスを提供するなど、時代や社会の変化に対応したより高度で専門的なサービスを提供することにより、全市民の多様なニーズへの対応を図る。

#### 方針3：にぎわい・ふれあいの場として交流・情報機能を充実する

駅前立地という特性を活かし、市民の交流の場・機会づくりに努める。その一環として、各地域館等を拠点に活動するボランティアの調整もその重要な役割となる。また、駅前、中心市街地における情報拠点として、様々な関連機関と連携し、情報の提供を行う。

#### 4.2.3 図書館ネットワーク・サービス網における中央図書館の役割

##### 1) 図書館ネットワークにおける拠点機能

市町合併による生活圏の拡大に対応し、全市民に対して有効なサービスを提供するためには、中央図書館を中心とした図書館ネットワークを確立する必要がある。その際には、市立図書館同士の連携を強化するだけでなく、学校図書館、市内関連施設、市外公共図書館等を含んだネットワークの形成が不可欠であり、中央図書館はその中枢窓口としての役割を担うことになる。

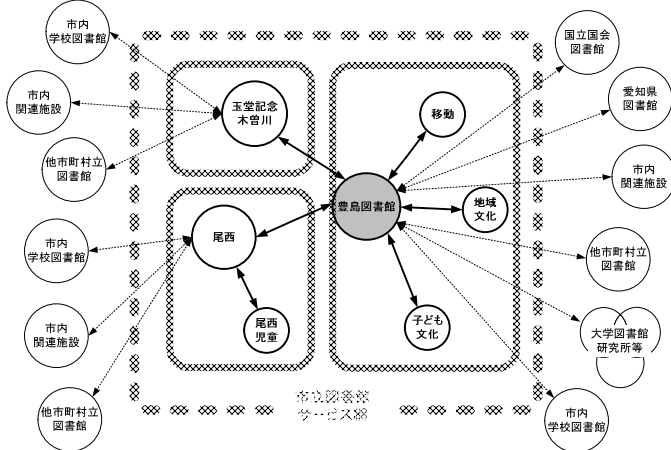


図 23 現況の図書館サービス網

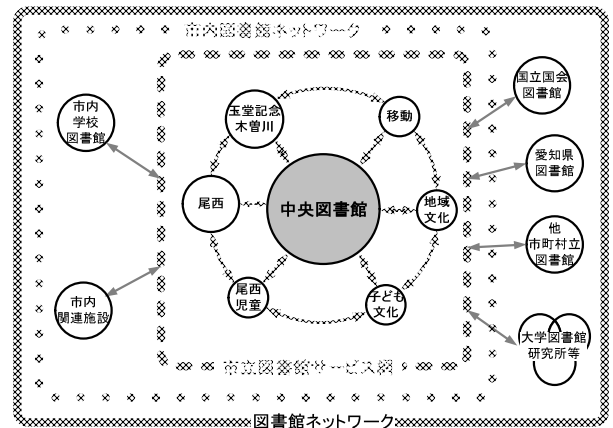


図 24 中央図書館を中心としたネットワークのイメージ

##### 2) 市立図書館サービス網における拠点機能

市立図書館サービス網において中央図書館は、すべての市民に平等に、充実した図書館サービスが行き渡るよう、市立図書館施策の中心としての役割を担う。全市民的な図書館の運営計画の策定、蔵書の選定・購入方針の決定、図書館情報システムの運用などを行うことにより、市立図書館サービス網を一元的かつ効率的に管理・運営し、資料・情報の有効な活用を図る。

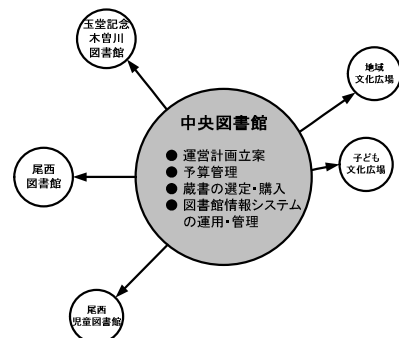


図 25 図書館施策の中心としてのイメージ

##### 3) アウトリーチ<sup>23</sup>活動拠点としての機能

中央図書館は、図書館に来館することが出来ない市民に対しても図書館サービスを展開し、学習の権利の保障を図るため、アウトリーチ活動拠点としての機能を持つ。

特に、障害者・高齢者・入院患者等は、図書館に来館することが難しいため、サービスからの阻害が発生しやすい。これらの人々を含む全ての市民に図書館サービスを提供するため、アウトリーチ活動を重視すると共に、有効な方法を追求する。

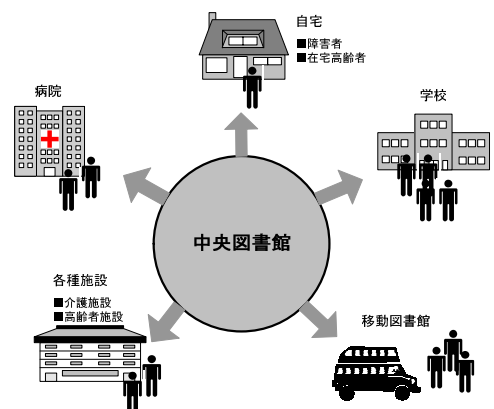


図 26 アウトリーチ活動拠点のイメージ

<sup>23</sup> アウトリーチとは、手を差し伸べる、という意味で、公共図書館サービス・エリアの中に存在しながら、サービスを受けない、あるいはサービスを受けない人々へのサービスをいう

#### 4.2.4 高度で専門的なサービスの提供拠点としての中央図書館の役割

本市の全ての市民に対して有効なサービスを提供するためには、中央図書館の役割と地域館（分館）の役割の明確化が必要である。中央図書館では、中央館として専門性を高めると共に、地域館への支援等を行う。そして、地域館では、それぞれの地域に密着したサービスの提供を行っていく。

また、中央図書館は中央館としての機能充実に加え、その近隣住民に対しては地域館と同様な地域サービスを提供していくことになる。しかし、児童への資料提供については、中央図書館の導入が検討されている駅ビルには不特定多数の人が出入りすることから、子どもの安全面での問題が懸念されるため、部分的な夜間の利用制限や子ども文化広場により多くの機能を集約するなど、運営体制や役割分担に留意する必要がある。

本市には、既存の地域館が 5 館存在することから、中央図書館はこれらと協力することにより、市立図書館サービス網における役割を明確化し、地域館では対応できないようなサービスの提供を行うことで、よりの確に市民ニーズに対応していく。

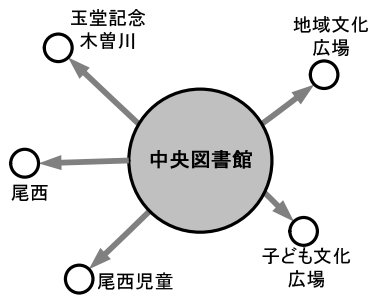


図 27 地域館のサポートのイメージ  
(中央館としての役割)

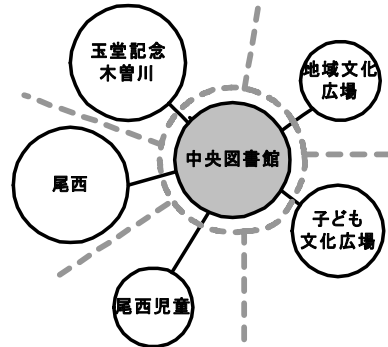


図 28 地域サービス提供イメージ  
(地域館としての役割)

### 1) 資料収集・保存・提供拠点機能

社会の様々な変化に対応し、幅広い世代、職業の市民の要求に応えるため、多様な資料の収集・組織・保存・提供を継続的に行う。また、市内図書館で収集した資料のうち、長期的に保存する必要のあるものについては、一括的に管理する。さらに、地域館では対応の難しい専門的な資料の収集や、資料のデジタル化についても積極的に取り組んでいく。

関連公共施設

玉置記念  
木曾川

木曾川  
資料館

また、合併以前のものを含む本市独自の歴史・文化等を伝承していくために、郷土資料等の地域に関する資料の保存にも力を入れることとする。その際には、博物館や歴史民俗資料館等の市内関連公共施設との連携を図る。

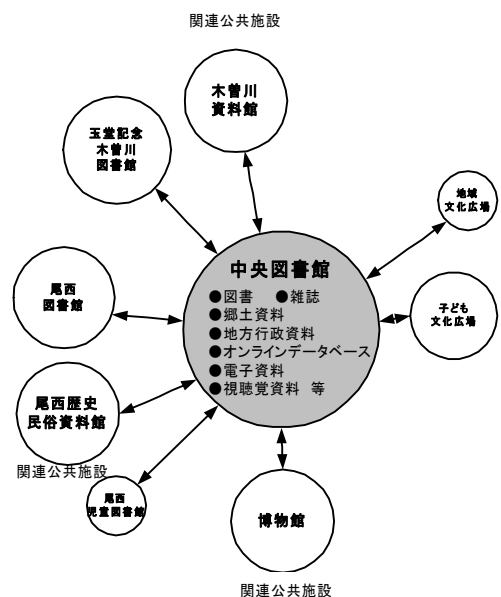


図 29 資料収集・保存・提供のイメージ

## 2) 多様な市民の生涯学習拠点としての機能

中央図書館は、多様な市民の生涯学習拠点として各利用対象に応じた支援を行うことで、市民の知的好奇心を刺激し、学習意欲の啓発を図る。その際には、資料・情報の提供やその利用に関する直接的な支援だけでなく、講座、講演会、研究会、鑑賞会、資料展示会等の行事の開催により、地域文化の育成・伝達に寄与し、生涯学習の場としての機能の充実を図る。

図書館としてサービスを提供する際の利用対象は、大まかに以下のように分類される。

- 児童・幼児
- ヤングアダルト
- 高齢者・障害者
- 成人
- 外国籍住民
- 学校

これらの利用対象うち、図書館へのアクセスの障害が生じやすい児童・高齢者・障害者等を対象としたサービスの提供については、地域館を中心に実施する。中央図書館においては、地域館としてのサービスに加え、外国語資料を提供していくことで、より多くの市民に対して生涯学習拠点としての機能を持つ。

### 4.2.5 情報・交流拠点としての役割

中央図書館は、尾張一宮駅ビルにおける整備が検討されていることから、中央図書館としての機能に加えて、その立地特性に対応した機能を持つ。

#### 1) 交流拠点としての機能

駅前には、日々多くの人々が往来し、集まる場所であり、地域の玄関とも言える場所である。その駅前に立地し、かつ商業施設との併設という特徴を持つ図書館は、市民に対して大きな求心力を持つ。そのため、資料・情報との出会いだけでなく、それらを介した人と人との出会い、交流の場の形成が期待される。図書館は、幅広い年代・職業の人々が同時に利用する施設であることから、日常的なふれ合いや、交流を通じた自発的なコミュニティの形成が可能である。

例えば、核家族化の進行などにより子育てを取り巻く環境が変化しつつある中で、親の育児不安の解消を図るための場として、あるいは親子の交流の場としての機能を持つことなどにより、多様な取り組みを積極的に進めていく。このように、中央図書館は、その情報・資料をもとに、地域のコミュニティづくりの基盤を培うための場を提供する。

#### 2) 情報提供・交換拠点としての機能

地域の玄関でもある駅ビルに立地し、便利で利用しやすい環境にある図書館として様々な情報を蓄積、橋渡しし、通勤通学者層を始めとする多様な人々に対して充実した情報の提供を行う。

市外から訪れる人々に対しては、行政・観光等に関する情報の提供が重要な役割となる。また、中央図書館は中心市街地における活性化、賑わいの創出拠点の1つと考えられていることから、

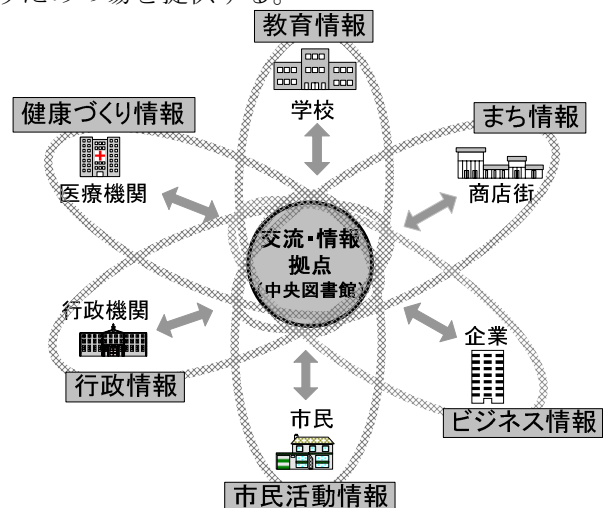


図 30 交流・情報拠点のイメージ

商店街や地場産業、ビジネス関連の情報サービス提供の場としても重要な役割を持つ。さらに、駅ビルを利用する市民に対しては、まちや市民活動、健康づくりに関する情報提供・交換の場となるなど、その立地特性に応じて、幅広い利用者の情報ニーズに応えるようなサービスを提供していく。

#### 4.2.6 他の公共サービスとの複合化による相乗効果

駅前における活性化・賑わいの創出拠点としての役割を充実させるため、他の公共サービスとの連携が有効である。「一宮市による尾張一宮駅ビル構想（案）」では、駅ビルに導入する公共公益施設として、図書館の他に市民活動支援センター、子育て支援センター、観光案内所、交番が検討されている。

##### 1) 市民活動支援センター

市民活動支援センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなど、既に活動している人たちや、これから活動しようとしている人たちを支援するサービス施設である。図書館と隣接して設置することで、情報拠点としての機能が充実するとともに、図書館ボランティアなど図書館に関わりの深い活動とその他の分野の活動との交流が活発になるなどの相乗効果が期待できる。

##### 2) 子育て支援センター

子育て支援センターは、乳幼児の子育て支援の拠点として、子育て相談や保育情報を提供するサービス施設である。センター内には子育てにを応援する保育士が常駐し、専門的な情報が充実するなど、図書館と隣接して設置する効果は大きい。図書館としての児童サービスの充実や、読み聞かせや講座などのイベントを通じて乳幼児をもつ親同士の交流が深まるなど、様々な相乗効果が期待でき、市民の生涯学習の推進に向けた連携が可能である。

##### 3) 観光案内所

市内の観光資源を活用した観光集客を推進するに当たり、市内の歴史、文化等に関する情報を協働で提供することが考えられる。現在観光協会においては、山内一豊に関する観光情報の提供が積極的に行われている。それにあわせ、図書館でも関連資料コーナーを設置するなどの連携が可能である。

##### 4) 交番

これまで、図書館は危険のない場所として認識されることが多かった。しかし、駅ビルという立地や、近年の治安の悪化などを考慮すると、図書館内における犯罪の発生も懸念されることから、利用者の安全を図るための施策が必要となる。その取組みの1つとして、交番との連携によるパトロールの実施等が考えられる。

## 5. 図書館サービス計画の検討

### 5.1. 基本的考え方

3.1「図書館・生涯学習振興施策の流れ」で述べたとおり、公共図書館には多種多様な資料整備・提供によるだけでなく、生涯学習実施拠点としての充実したサービスが求められている。

中央図書館は、中心市街地活性化事業が進められている地域で、かつ、一宮市の玄関である尾張一宮駅に整備される中核機能を有した図書館であることから、その立地特性を考慮したサービスを提供することが求められている。

また、現時点において一宮市の図書館サービスが抱えている様々な課題や、利用者アンケートおよび市民アンケートの結果から明らかになった課題、ニーズに対しても充実を図ることが求められている。

そこで、前章で整理した中央図書館が担うサービス機能を、具体的に展開するサービスを挙げて整理を行う。

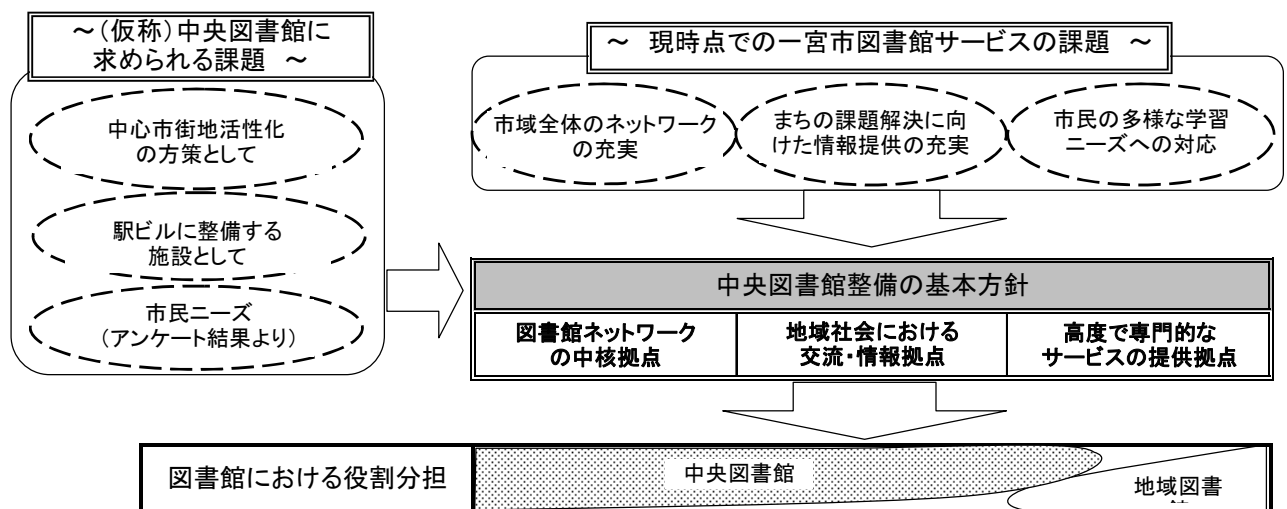


図 31 中央図書館と地域図書館の役割分担

#### 【中央図書館としての機能】

- 図書館ネットワークにおける拠点機能
- 市立図書館サービス網における拠点機能
- アウトリーチ活動拠点としての機能
- 資料収集・保存・提供機能
- 多様な市民の生涯学習拠点機能
- 情報・交流ポータル拠点としての機能

## 5.2. 図書館の基本サービス

### 5.2.1 資料・情報提供サービス

図書館は暮らしの中での疑問、趣味・暮らしに関わる情報から、資格・就業・キャリアアップなど等の生活全般に関わる情報や、調査研究などに対応する資料・情報といった、さまざまな資料・情報を求めて来館する利用者に対して、必要な資料・情報の提供を行い、閲覧・貸出しサービスの充実を図る。

#### 《サービス事例》

- 利用者の資料・情報入手に関して、居住地や利用する図書館によって著しい格差が生じないように配慮したサービスの提供。
- 予約が著しく集中している資料や、所蔵していないリクエスト本について、複本の購入や他の公立図書館からの借用を適切に行う。

また、利用者が求めている資料・情報を効率的に見つけ出し、利用できるように、古文書や行政資料・図書以外のパンフレット等の地域資料については、電子化を積極的に行い、資料・情報の検索性の向上を図るとともに、利用者の利便性向上、生涯学習活動支援、高度専門サービスの提供、地域社会の抱える課題解決の観点から、以下サービスの充実を図る。

### 5.2.2 レファレンスサービス

利用者だけでなく、市民の求める調べもの相談について、資料や情報の提供や専門機関の紹介などを行うレファレンスサービスの充実を図る。

#### 《サービス事例》

- 対面サービスによる調べもの相談だけでなく、電話・ファクシミリ・電子メールによる相談の積極的な受付。
- 自館や市内地域館にない資料や情報については、国会図書館・愛知県図書館や岐阜県・三重県・富山県における公立・大学図書館ネットワークを活用してのサービス提供に努めると同時に、その資料・情報を有する機関や組織、個人等を紹介するサービスを提供。
- 利用者が自分自身で目的とする書籍・資料を探し出せる環境を整備し、利用者自身が容易に使いこなせるような支援。
- レファレンス専用カウンターの設置および、専任の司書を配置し、より迅速で専門的なサービスを提供。
- 質疑内容による対応・対処方法のデータベース化を進め、繰り返し受けられる事例については、図書館ホームページ、図書館だより等を通じての情報提供を行う。

### 5.2.3 アウトリーチサービス

外出が困難な市民や、居住地域や近郊地域に図書館がない市民に対しても、ゆとりある豊かな生活を送れるように、「図書館を利用して学習する権利・学習する機会を得る権利」を満たすサービスの充実を図る。

“アウトリーチ”とは、公共図書館サービス・エリアの中に存在しながら、サービスを享受していない、あるいはサービスを享受できない特定の人々へのサービスをいう。

《サービス事例》

- 移動図書館車（ほたる号）ステーションの見直しを図り、市民間に格差が生じないようなサービスを提供。
- 市内の医療機関や介護施設等に入院・入所している市民に対し、団体貸出等のPRを積極的に行い、サービスの提供を行う。

#### 5.2.4 地域資料・行政資料サービス

一宮市の行政資料は、一宮市でしか得られない貴重な地域資料でもあることから、旧 2 市 1 町発行の既存資料だけでなく、今後発行される行政資料や地域資料についても幅広く収集し、永久に保存することで充実した地域情報の提供サービスの充実を図る。

また、一宮市の歴史や風土文化・七夕まつり・産業・地理に関する郷土資料や、文学・芸術・芸能・スポーツ等の各界で活躍した（している）一宮市出身者や、一宮市にゆかりのある著名人に関する資料を収集し提供する。

《サービス事例》

- 幕末から明治維新期において一宮市で活躍した有隣舎等、一宮市に関する歴史や風土文化、全国的に有名な七夕祭り・地理に関する資料を、地域の貴重な財産として管理。
- 既に多数の資料収集が行われている「せんい」に関する資料についても同様に、地域の貴重な財産として管理。
- 名誉市民や各界で活躍した（している）一宮市出身者・一宮市にゆかりのある著名人に関する資料を収集。
- 図書以外のお祭り等の催事ポスターや、リーフレット、地域情報が記載されている雑誌記事、広告についても、地域固有の貴重な資料として管理し、サービスを提供。

#### 5.2.5 ITサービス

高度情報通信ネットワーク社会の進展にともなって、大量の情報を横断的に検索することや、伝達することが可能となるなかで、図書館サービスにおいても、電子情報資料の充実だけでなく、情報通信技術を活用したサービスの充実を図る。

《サービス事例》

- 図書館ホームページの項目内容の拡充により、インターネットを活用して提供する情報を拡大。
- ICタグを活用し、効率的な蔵書管理や、館内資料の紛失を予防。
- 蔵書検索用のパソコン、インターネット接続可能な端末の充実。（インターネット接続可能な端末については、座席固定の設置型だけでなく、グループ学習等の複数人数で利用しやすい館内貸出し用のノート型パソコンの導入を含む。）

- 利用者が持ち込んだノート型パソコンにおいても、インターネット接続が可能とするサービスを提供。
- インターネットの利用や、パソコンソフトの活用に馴染みがない市民に対する講習や、館内蔵書検索用のパソコン利用の説明会等、情報通信技術の活用に関連するサービスを提供。

#### 5.2.6 利用対象別サービス

図書館に対する利用や生涯学習ニーズは、利用者によってさまざまであるが、利用者のライフステージや職業によって、ある程度の傾向を把握することが可能である。そのことから、利用者・対象者別のニーズに合わせ、以下のサービスの充実を図る。

また、利用対象者別サービスの提供を行うにあたっては、中央図書館には、市立図書館サービスの中核として、地域館と連携して全市域におけるサービスの企画・立案・調整といった機能だけでなく、旧一宮地区を中心とした地域における地域館としてのサービス提供を行う。

##### 1) 幼児・児童サービス

魅力ある絵本やよみもの・紙芝居を豊富に揃え、子どもたち・親子が落ち着いてのびのびと過ごせる環境を提供する。特に、児童サービスにおいては、専門的な知識と豊富な経験を有する職員を配置し、子どもが本に親しみを感じ、自ら考え・学ぶ力を育む環境の充実を図る。

《サービス事例》

- 学校や幼稚園・保育園・子育て支援センターなどの関係機関と連携し、子どもの読書環境の整備を推進。
- ブックスタートや読み聞かせを行う場として、研修を積んだボランティアを気軽に活用できる環境を提供。
- 乳幼児から小学生と、その保護者が気兼ねなく利用できるスペースを提供。
- 保育や育児、子育てに関する専門的な知識と、豊富な経験を有する職員を配置し、子どもと本に関する相談に応じるサービスの提供。
- 各地域館においてブックスタートや、読み聞かせ等を行う職員・スタッフに対する研修を実施。
- 図書館ホームページ内に、子ども向けのコーナーを開設し、子どもたちや保護者に対して、図書館情報を提供。
- 外国籍や障害をもつ児童に向け、児童書・絵本・紙芝居や、布絵本等の充実を図り、市民間に格差が生じないサービスを提供。

##### 2) ヤングアダルトサービス

図書館から遠ざかりがちなヤングアダルト(中高生等の10歳代後半の若者)に対して、利用しやすく、多くの同世代とコミュニケーションを図れるスペースを提供する。

また、将来の進路や職業に関して興味や夢を抱くきっかけとなる資料を整備することで、思春期における健全な心身の成長に寄与する資料の充実を図り、サービスの提供を行う。

#### 《サービス事例》

- 中高生の趣味や、スポーツ、音楽、ファッション等、思考・ニーズに関する資料の充実。
- ヤングアダルト層向けにマンガ化された歴史や伝記、社会的な事業の記録（プロジェクトXなど）等、生き方や進路・職業選択の参考となる資料を整備。
- 市や県等の公共機関の関連部署と連携したサービスの提供。
- 各地域館において、ヤングアダルトに対してサービスを提供する職員・スタッフに対する研修を実施。
- 自習やグループ学習を行えるスペース等、中高生等のヤングアダルト層に利用しやすいスペースを提供。

### 3) 高齢者・障害者サービス

今後ますます増加し、市民に占める割合も増え続ける高齢者や障害者に対しては、生涯学習の場としてだけでなく、人と出会い、触れ合える社会との接点としてや、ゆとりある時間を過ごせる環境を提供する。

また、録音図書や点字図書、大活字本などの資料や、資料の郵送サービス、対面朗読サービスを充実するなど、図書館を気軽に利用できるサービスを提供する。

#### 《サービス事例》

- 現在、視覚障害で1級から6級、身体障害者で1級から3級の市民を対象に行っている資料の郵送サービス対象を、介護保険法による在宅要生活支援者まで拡大し、サービスを提供。
- 録音図書、点字図書、大活字本の資料の充実だけでなく、眺めて楽しめる写真集や対面朗読サービスの充実。
- 健康や医療をはじめとした「こころと体」に関する資料・情報の充実だけでなく、地域の医療機関や行政による検診サービス等の情報の提供や、ケガ・病気の予防に関する資料紹介を行う等、より生活に密着したサービスの提供。
- 視覚障害者に対する市広報誌の音訳・郵送サービスの実施。

### 4) 成人サービス

会社員・主婦を主とした成人層は、ビジネスに関する情報収集やアイデアの参考に図書館を利用するだけでなく、地域の抱える課題の解決等のより生活に密着した情報を得るために図書館を利用することが多い。

また、それらのために求める資料も、一般書から行政資料までと幅広く、より専門的であることが多い。

このことから、地域における有効な情報拠点として、利用者ニーズを満たす生活関連情報、特に行政関連情報の充実を図り、サービスの提供を行う。

#### 《サービス事例》

- 日常生活を送るなかで、予想外に発生したトラブルや、時代の変化とともに改正・制定される法律に関する資料（一般書から実用書まで幅広く）の充実。
- ライフステージの変化によって直面する、子育て・保育・教育に関する資料（一

般書から実用書まで幅広く）の充実。

- ・ 医療・健康・介護に関する資料（予防から治療・リハビリまで幅広く）の充実。

## 5) 多文化・国際化サービス

外国籍の市民が増加を続けているなかで、日本国籍の市民と外国籍の市民がコミュニケーションを深めるために、日本文化や生活習慣を紹介する資料の充実を図り、提供を行う。

また、経済・文化の国際化が年々進むなか、異なる文化に興味を持つ市民に対しては、多文化社会や国際社会の理解につながるような資料・情報の充実を図り、サービスの提供を行う。

### 《サービス事例》

- ・ 日本語が上手に話せない外国人が、気軽に図書館を利用できたり、より深い外国文化に市民が触れるために、外国語の雑誌・新聞を充実。
- ・ 市民の多文化理解・国際理解に資する資料を提供。
- ・ 図書館内の利用案内や施設サインの多言語化。
- ・ 観光のために訪れる外国人に対して、観光情報を提供。

## 6) 学校支援サービス

子どもたちの「読書活動」の支援をはじめ、多様な能力・個性の導き出しや、自ら学び・考える力を育むための環境の充実目的として、「調べ学習」や「課題追求学習」におけるより大きな効果を発揮できるよう、学校や学校図書館と連携してサービスの提供を行う。

また、本・図書館に親しみを感じやすい環境づくりや、教職員への各種支援においても、学校と連携してのサービスの提供を行う。

### 《サービス事例》

- ・ 市内全域の学校および各地域図書館と連携し、学校支援の企画窓口となると同時に、学校図書館に対する支援サービスの提供を行う。
- ・ 学級招待・学校訪問・図書クラブ活動指導を行い、図書館資料の蔵書内容や検索方法を紹介・指導するサービスの提供を行う。
- ・ 図書館ボランティアや、幼児・児童に対する読み聞かせボランティア体験の企画・立案を行い、学校やPTA・各地域図書館・ボランティア団体と連携して、サービスの提供を行う。
- ・ 教員の教材作成や学級運営・教育指導関連の資料を体系的に管理し、市民に対する情報提供サービスとは別に、学校・教職員に対する情報提供サービスを行う。

## 5.2.7 特徴的なサービス

近年、図書館サービスには、生涯学習実施拠点としてだけでなく、地域の課題を解決する拠点としてのサービスや、地域を支える情報拠点としてのサービスの提供が求められている。

また、中央図書館は、中心市街地活性化事業が進められている地域で、かつ、一宮市の玄関である尾張一宮駅に整備される中核機能を有した図書館であることから、その立地特性を考慮したサービスを提供することが必要となる。

### 1) ビジネス支援サービス

地域図書館としての機能を併せ持つ図書館として、一宮市の中心市街地である一宮地区の活性化に資する情報提供として、同地域の事業者役に役立つ資料・情報の充実を図る。

《サービス事例》

- 市内事業者のうち、個人事業者や小規模事業者を主な対象とした、税制や公的な助成金、社会保険等の企業経営に参考となる情報・資料の充実。
- 地方都市における町おこしや、商店街の活性化事例に関する情報・資料の充実を図り、市や県の経済・産業関連部局や商工会議所等の経済団体と連携したビジネス支援講座を開催。
- 就職・起業・キャリアアップにつながる資格関連情報や、経済・経営についての図書・新聞・雑誌の充実。
- 自治体間における行政サービスに格差が広がるなかで、行政サービスに対する政策形成や、自治行政の参考となる情報・資料を充実。

### 2) 市民活動支援サービス

利用者・市民が利用しやすく、市民に開かれた充実したサービス提供を受けられる図書館には、さまざまな利用者・市民が集うことから、市民の文化活動や、そのきっかけとなる場を提供する。

《サービス事例》

- 市民活動支援センターとの連絡・連携により、市民活動団体や市民サークルに関する情報を提供し、市民が活動に参加したり、新たな団体・サークルの設立に参考となるサービスを提供。
- 読書会や講演会、展示会を開催できる場（ギャラリーなど）の提供。

### 3) 賑わい支援サービス

通勤通学や買い物等で多くの市民が利用する駅ビルに立地することや、尾張一宮駅周辺は商店街・ビジネス街が広がる中心市街地にあたることから、まちの活性化に資する情報の提供だけでなく、情報が交換できる場としてのサービスの提供を行う。

《サービス事例》

- 商店街・商工会等と連携した地元商店街におけるイベントや店舗案内等の情報の提供。
- 観光案内所と連携した一宮市域の観光情報の提供。

### 4) ボランティア活動支援サービス

利用者・市民が利用しやすく、市民に開かれた充実したサービス提供を受けられる図書館には、今やボランティアとの協働が必要不可欠となっていることから、自主性を尊重しながら多様なボランティアが参加し、活動できる環境整備の充実を図る。

《サービス事例》

- 図書館におけるボランティア活動自体が、参加者にとっての生涯学習となること

から、図書館業務に関する各種ボランティア（図書館ボランティア、ヤングアダルト対応ボランティア、対面朗読・音訳・点訳ボランティア）の養成講座を開催。

- ボランティアからの相談等に対応可能な職員を配置するとともに、地域図書館の職員と連携して、市域全体におけるボランティア活動を支援。
- 本と子どもを結びつける読み聞かせボランティアや、障害者を支える音訳・点訳・対面朗読ボランティアを養成。

### 5.3. 図書館資料の収集計画

#### 5.3.1 収集資料の基本方針

中央図書館は、中央館としての図書館ネットワークの中核機能に加え、一宮市における生涯学習施策の企画・実行の中心的役割も担っている。

このことから、基本的な図書館資料の収集はもとより、国、県、市が推進している各施策や、多様化する利用者・市民ニーズに応える情報提供などに必要な資料を、バランス良く充実させる必要がある。

また、公共交通機関の集積地である尾張一宮駅に整備される図書館として、地域の活性化に資する資料ストックと情報提供に十分配慮することも重要となる。

以上のことから、資料収集の基本方針は以下のとおりとする。

#### 新鮮で豊富な情報・資料をバランスよく収集する

- ・ 市民の生涯学習を支えるため、市民の要求および社会的な動向に配慮し、教養、調査研究、レクリエーション、職業生活、日常の生活に資する資料を収集する。
- ・ 地域館の現状および将来的な展望をふまえ、それらを支援できる資料収集に努める。
- ・ 著者の思想的、宗教的立場などにとらわれることなく、多様な観点に立って幅広く資料を収集する。
- ・ 資料の収集にあたっては、県立図書館、県内公共図書館、その他類似施設との連携、協力のうえ、効率的に幅広い資料収集に努める。

#### 市立図書館の中核として多様なニーズに応える資料を収集する

- ・ 国、県や関連公共公益法人が発行する行政資料は、主要なもの、一宮市に関連する資料を中心に、必要に応じて積極的に収集する。
- ・ 市場に流通する資料だけでなく、行政機関や民間団体等が発行する資料についても、幅広く収集する。
- ・ 電子媒体等の紙媒体以外の情報資料を、積極的に収集する。
- ・ 市民の多文化、国際化の知識習得や、観光で訪れた外国人に対して参考となる資料を収集する。

#### 地域の交流・情報拠点として生活に密着した資料・情報を収集する

- ・ 小中学生を対象とした調べ学習に必要な資料や、学校図書館の機能を充足する資料を、学校と連携をとりながら適切に収集する。
- ・ 一宮市に関連する資料は、全ての分野において幅広く収集する。
- ・ 一宮市出身者やゆかりのある人物に関連する資料は、積極的に収集する。
- ・ 一宮市や市関連団体が発行する行政資料は、全ての分野において幅広く収集する。
- ・ 気軽に来館できない高齢者や障害者が、気軽に来館できるような資料（大活字本・写真集等）を積極的に収集する。
- ・ 外国語の資料をニーズに合わせて収集する。

### 5.3.2 資料の収集基準

#### 1) 一般図書

- 基本方針のもと、各分野にわたる基本的な図書を中心に収集する。
- 基礎的・入門的・一般的な資料から、実用的・専門的な資料まで幅広く収集する。
- 市民生活における日常的な調べものや、調査・研究のために必要な辞典・事典・統計・地図等を収集する。

#### 2) 児童図書（幼児・児童サービス資料）

- 子どもの発達段階に応じて、読書習慣の形成と継続に役立つように、各分野の資料を広く収集する。
- 紙芝居・絵本・ものがたりなどは、貸出状況を考慮して収集する。

#### 3) ヤングアダルト資料

- 図書館から遠ざかりがちな世代を、図書館に近づける・呼び戻す機会となるような魅力的な資料を収集する。
- 図書のほかに、CD・DVD等の音楽・映像資料を収集する。

#### 4) 高齢者・障害者サービス資料

- 大活字本や、見て楽しめる写真集など、高齢者にとって利用しやすい資料を収集する。
- 「くつろぎの場」として図書館を利用できるように「雑誌・新聞」の充実を図る。
- 視覚・視力障害者でも気軽に図書館を利用できるように、大活字本や、点字図書・拡大図書・録音図書を積極的に収集する。

#### 5) 成人サービス資料

- 法律・福祉・健康や、子育て・教育といった日常生活に役立つ資料を収集する。
- 就職・起業といったビジネスに関連する資料や、キャリアアップにつながる資格関連の資料を収集する。

#### 6) 多文化・国際化サービス資料

- 外国語による雑誌・新聞や日本を紹介した資料を収集する。
- 日本の歴史や文化に対する理解を深めることに役立つような資料を収集する。
- 市民の多文化理解・国際理解教育に資するような資料を収集する。

#### 7) 学校支援サービス資料

- 学校図書館で不足している学習資料を収集する。
- 教職員の参考となる教材作成や学級運営・教育指導に関連した資料を収集する。

#### 8) 地域・行政資料

- 一宮市に関連するもので未収集の資料や、新たに発行された資料を積極的に収集する。
- 市や県等の行政機関が発行する広報誌や、コミュニティー新聞、地域イベントに関するパンフレット等を収集する。

#### 9) 視聴覚資料

- 図書館が視聴覚スペースとして「くつろげる場」となるCD・ビデオ・DVD等を収集する。

#### 10) 新聞・雑誌

- 雑誌については、各分野にわたって一般的な内容ものから専門的な内容ものまで、幅広く収集する。
- 新聞については、主要な全国紙から中部地方・愛知県内の地方紙や、専門紙・業界紙・政党紙まで、幅広く収集する。
- 外国語による雑誌・新聞を収集する。

### 5.3.3 図書館資料の保存方針

資料の保存については、従来の紙媒体における情報の信頼性・一貫性・保存性の特性に加え、即効性・検索性・蓄積性を兼ね備えた電子媒体によるデジタル情報・資料を体系的な保存を行う。

特に、古文書、新聞縮刷版、官報、各種統計資料等の行政資料や、地域イベントの開催パンフレット等の地域固有の情報については、資料のデジタル化を積極的に行う。